

仙台市文化財調査報告書第158集

仙台市
町田遺跡

—発掘調査報告書—

1992年3月

仙台市教育委員会

仙台市文化財調査報告書第158集

仙台市
町 田 遺 跡

——発掘調査報告書——

1992年3月

仙 台 市 教 育 委 員 会

序 文

仙台市内には現在、700余ヶ所の遺跡が登録されており、毎年、数10ヶ所において発掘調査が実施され、私たち仙台市民の祖先の暮らしを知るための貴重な資料が次々と掘り出されております。

生出地区におきましても、近年、国道バイパス建設等の地域開発が盛んにおこなわれ、それらに伴って多くの遺跡の調査が実施されこれまであまり知られていなかった本地区の原始・古代の様子が少しづつ解き明かされてきておりますことは誠に喜ばしいことあります。町田遺跡の調査は国道建設に伴う事前調査にひき続き、2度目の発掘調査にあたっておりますが、縄文時代の狩猟生活を偲ばせる陥し穴や、平安時代の集落の一端とみられる竪穴住居跡や当時の土器類、江戸時代の農村における生活の様子を探る建物跡などさまざまな資料が明らかになっております。調査の成果から、本遺跡は縄文時代から江戸時代にいたる長い期間にわたって営まれた複合遺跡であり、その範囲も当初考えられていたものより、さらに周辺に広がる大きな遺跡であることもわかつてまいりました。

調査に際しましては、東北郵政局および地元の皆様方からの多大なる御協力をいただきました。ここに記して感謝申し上げる次第であります。先人の残した貴重な文化遺産をつぎの世代に継承していくことは現代に生きる私たちの大きな責務でもあります。これからも文化財保護への深いご理解と御協力をお願いするとともに、本書が文化財愛護精神高揚の一助となりますことを願って止みません。

平成4年3月

仙台市教育委員会

教育長 東海林 恒英

例　　言

1. 本書は生出郵便局舎新築工事に伴う、町田遺跡の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、仙台市教育委員会が主体となり、平成2年4月16日から6月22日まで実施した。
3. 本書に掲載した地形図は、国土地理院発行の
4. 本書中の、実測図の方位は磁北を基準にしている。
5. 本書中の土色は「新版標準土色帖」(小川、竹原:1973)を使用した。
6. 報告書作成は、次のとおりに分担した。

本文執筆 木村浩二 I, III, IV, V, VII.

五十嵐康洋 II, IV, 3, VII.

前田裕志 VI 1・2・4, VII.

遺構トレース 菅家娟美子

遺物実測 五十嵐、小林史子、在川宏志、泉美恵子、菅谷裕子

遺物トレース 五十嵐、在川、泉、青山博樹

遺構写真撮影 木村、五十嵐、前田

遺物写真撮影 五十嵐、前田

編集は木村・五十嵐・前田がこれにあたった。

7. 遺構略号は次のとおりである。

SB 建物跡 SI 塗穴住居跡 SX その他の遺構

SK 土坑・墓壙 P ピット・小柱穴

8. 遺物略号は次のとおりで、各々種別ごとに番号を付した。

A 繩文土器 D 土師器(ロクロ使用) E 須恵器

H 瓦 J 磁器 K 石器・珪化木

N 金属製品 Q 骨

7. 本調査における出土遺物、図面、写真等は、仙台市教育委員会で一括保管しているので活用されたい。

目 次

序 文	
例 言	
I 調査に至る経過	1
II 調査要項	2
III 遺跡の位置と環境	3
IV 調査の方法と経過	9
V 基本層位	9
VI 発見遺構と出土遺物	11
1. 竪穴住居跡	11
2. 挖立柱建物跡・掘跡	11
3. 土 坑	16
4. 墓 壇	24
5. その他の遺構と遺物	36
VII ま と め	37
写真図版	41

I 調査に至る経過

仙台市一番町一丁目1番34号、東北郵政局長 丸山一敏氏より、仙台市茂庭字町北41-1外に郵便局庁舎新築工事に伴う発掘届が、平成元年1月19日付で提出された。届出によれば、敷地面積は2,030.26m²、その内建築面積は1,006m²であるが、敷地全体の表土を1.60~1.75mすき取ることとなっていたことから、事前調査を実施することとなった。周知の遺跡範囲は敷地の南西部の一部がかかっていたが、昭和62年度に実施された敷地南に接して東西にのびる国道286号線建設に際しての事前調査により、遺跡の範囲が東側に拡大することが確認されていたことから、協議の結果、敷地全域の試掘調査を実施することとなった。

試掘調査は、平成元年6月26・27日に東北郵政局建築部督財課の立ち会いで実施した。調査区は幅3~5mのトレンチを南北方向に5本設定し、重機にて表土・搅乱土を排土し、遺構検出作業を行った。その結果、北西部は土取りのため遺構検出面がすでに消滅していたが、南・東部分では、表土下8~30cmで遺構・遺物包含層を確認したことから、協議の結果、発掘調査が必要であり、仙台市教育委員会が調査を担当することとなった。

平成2年4月13日付で、発掘調査委託契約が締結され、野外調査は平成2年4月16日から6月22日まで行われた。概算委託料は6,848,000円であったが、確定使用額は4,353,749円である。



第1図 遺跡位置図

II 調査要項

1. 遺跡名：町田遺跡（仙台市文化財登録番号 C-255）

2. 所在地：仙台市太白区茂庭字町北

3. 事業主体：東北郵政局

4. 調査主体：仙台市教育委員会

5. 調査担当：仙台市教育委員会文化財課

調査員：木村浩二、五十嵐康洋

調査補助員：前田裕志

6. 調査期間：自 平成2年4月16日 至 平成2年6月22日

7. 調査面積：約 1,300 m² (対象面積 2,030 m²)

8. 調査参加者：菅家婦美子 在川宏志（以上整理も含む）

亀山カヨ 川村 信 菊地恵子 菊地栄子 桜谷勇作 佐藤 進 佐藤三代

子 庄子かつえ 鈴木きぬ子 平間 栄 湯瀬由紀子

小林史子 畑中ゆかり（整理のみ）

9. 調査協力：東北郵政局

太白区役所生出支所

III 遺跡の位置と環境

1. 地理的環境

町田遺跡は仙台市街中心部より南西約9km、仙台市太白区茂庭字町北地内に所在する。この地区は、奥羽山系の一部である面白山地から仙台市東半部に広がる宮城野海岸平野にむかって派生する蕃山・青葉山・高館丘陵と、これらの丘陵を開拓しながら東流する名取川によって形成された鈎取洪積台地とよばれる河成段丘からなっている。遺跡の所在する生出地区は名取川左岸、北側を蕃山丘陵、南側を高館丘陵にかこまれた盆地状を呈する河岸段丘上に位置している。遺跡はこの盆地の西端近くを開拓して名取川に注ぐ岩ノ川の東側、標高約69mの段丘緩斜面に立地している。

2. 歴史的環境

この周辺の丘陵及び段丘面には旧石器時代から近世に至る各時代の遺跡が分布しているが、名取川下流域に移行する山田地区以東の段丘面・沖積面に多くの遺跡が分布するのとは対照的に、狭い丘陵斜面・段丘上に立地しており、その数も少ない。

旧石器時代の遺跡は、名取川左岸山田地区段丘上に山田上ノ台遺跡⁵⁰、北前遺跡⁵¹があり、旧石器時代前期・後期の遺物が出土している。

縄文時代早期～前期の遺跡は、梨野A遺跡⁵²、嶺山B遺跡⁵³、沼原A遺跡⁵⁴、川添東遺跡⁵⁵、北前遺跡⁵⁶、山田上ノ台遺跡⁵⁷、館前東遺跡⁵⁸、中沖遺跡⁵⁹等があり、北前では前期末葉の集落跡、末葉の土坑群が調査されている。

縄文時代中期の遺跡は、梨野・沼原等の茂庭団地造成地内の各遺跡の他、人来田遺跡⁶⁰、人来田A遺跡⁶¹、新熊野堂遺跡⁶²、山田上ノ台遺跡等があり、梨野Aでは後葉の住居跡、人来田では中葉の住居跡が調査されている。

縄文時代後期～晩期の遺跡は、中期と同様茂庭地内の各遺跡の他、峯岸遺跡⁶³、門野山廬遺跡⁶⁴等があり、梨野A遺跡では晩期の土坑墓が調査されている。

また、これらの他にこの地区には大貝中⁶⁵・大貝下⁶⁶・向根⁶⁷・西前⁶⁸・新組⁶⁹塩ノ瀬⁷⁰・中ノ瀬⁷¹・羽黒堂前A⁵⁰・B⁵¹の縄文時代の遺跡がある。沼原A・B・嶺山A・B遺跡では陥し穴が発見されており、狩猟の場であったことがしられている。

弥生時代の遺跡は、縄文時代にくらべ遺跡数が減少し、沼原A・B、門野山廬・人来田A・中ノ瀬等があるが、各遺跡の詳細は不明である。この時代になると沖積平野部には水田農耕が定着し、生産基盤の変容に伴って生活の場が、丘陵部から水田耕作の可能な平野部に移っていたものとみられる。

古墳時代の遺跡は、梨野A・梨野横穴群⁷²・向根横穴群⁷³・坂ノ下⁷⁴・新組・塩ノ瀬・人来



第2図 遺跡分布図

第1表 遺跡地名表

NO	遺跡名	発見場所	立地	時代
1	町内遺跡	包含地	河岸段丘	古墳・平安
2	茂庭大崎	城跡	丘陵	中世
3	カナクソ遺跡	生薙跡 (製鉄?)	丘陵	中世・近世
4	川添水遺跡	包含地	河岸段丘	縄文
5	大崎中遺跡	包含地	段丘	縄文・古墳・平安
6	火賣下遺跡	包含地	丘陵斜面	縄文
7	酒呑遺跡		丘陵斜面	平安
8	鎌前東遺跡	包含地	台地	縄文・平安
9	横浜遺跡	包含地	丘陵	中世
10	中沖遺跡	包含地	丘陵斜面	縄文・平安
11	南沖東遺跡		丘陵斜面	平安
12	右京内遺跡		丘陵斜面	縄文
13	境出遺跡	包含地	丘陵斜面	奈良・平安
14	鶴野C遺跡	集落跡	丘陵斜面	縄文・余良・平安
15	鶴野A遺跡	包含地	丘陵	縄文・古墳・余良・平安・中世
16	鶴野D遺跡	包含地	丘陵	
17	治原B遺跡	狩獵場	丘陵	縄文(中期)～弥生(中期)
18	治原C遺跡	散布地	丘陵	縄文(中期・後期)～平安
19	船山遺跡	狩獵場	丘陵	縄文・平安
20	袖川上遺跡	城跡	丘陵	縄文・平安
21	向原遺跡	包含地	丘陵斜面	縄文・古墳・平安
22	沼原A遺跡	狩獵場	丘陵	縄文・余良・平安
23	佛山C遺跡	生産跡	丘陵	縄文・平安
24	横畠跡		丘陵	中世・江戸(天正)
25	茂庭山駆跡		丘陵	中世・江戸(天正)
26	本郷遺跡	城跡	丘陵斜面	奈良・平安
27	櫛原遺跡	包含地	河岸段丘	縄文
28	門山山西遺跡	包含地	丘陵斜面	縄文・余良・平安
29	新所好室遺跡	冲積地	河岸段丘	縄文
30	町北東遺跡	包含地	丘陵斜面	縄文
31	西田金跡		河岸段丘	縄文
32	新折遺跡	包含地	河岸段丘	縄文・古墳・平安
33	塩ノ瀬遺跡	包含地	段丘	縄文・古墳・平安
34	ノヤマ遺跡	牛堀跡 (製鉄?)	丘陵斜面	中世
35	上前三塚		丘陵斜面	縄文
36	鶴木A遺跡	包含地	丘陵	古墳
37	鶴野大群	機穴古墳	丘陵	古墳
38	茂庭東櫛けんとう城跡	城跡	丘陵	中世
39	内根穴大群	機穴古墳	丘陵斜面	古墳
40	坂下遺跡	包含地	丘陵斜面	古墳・平安
41	人来A遺跡	包含地	台地	縄文・弥生
42	中ノ瀬遺跡	包含地	河岸段丘	縄文・弥生
43	人来B遺跡	無落跡	台地	縄文
44	人来C遺跡	包含地	段丘	縄文・古墳・平安
45	人来D東遺跡		河岸段丘	縄文・奈良・平安
46	人来E西遺跡	包含地	河岸段丘	古墳・平安
47	北原遺跡		谷底平野	後期旧石器
48	青原山遺跡	包含地	丘陵斜面	縄文・平安
49	佐保山東遺跡	包含地	丘陵	縄文・平安
50	阿室下遺跡		谷底平野	縄文・平安・中世
51	上野山遺跡		台地	縄文
52	北浦遺跡	集落跡	河岸段丘	旧石器・縄文・平安・江戸
53	杉土手		丘陵	江戸
54	羽風堂遺跡		段丘	縄文・奈良・平安
55	羽風堂剪B遺跡		段丘	縄文・古墳・平安
56	羽風堂剪A遺跡		段丘	縄文・古墳・平安
57	山田上・台塚		段丘	縄文・古墳・平安
58	山田上・台遺跡		段丘	縄文・古墳・平安
59	河原通A遺跡		台地	平安
60	河出通B遺跡		台地	縄文・平安
61	清州原西遺跡		自然堤防	
62	高野坂跡	城跡	丘陵	中世
63	小(山)遺跡	城跡	丘陵	中世
64	鬼野東大塚跡	城跡	丘陵	中世
65	大崎山遺跡	城跡	丘陵	中世
66	向原東遺跡	包含地	冲積地	奈良・平安
67	上ノ原山遺跡	包含地	丘陵	旧石器・縄文・平安

田B(6)・人来田C・羽黒堂前A・〃B遺跡があり、梨野Aでは中期の土坑が調査されている。

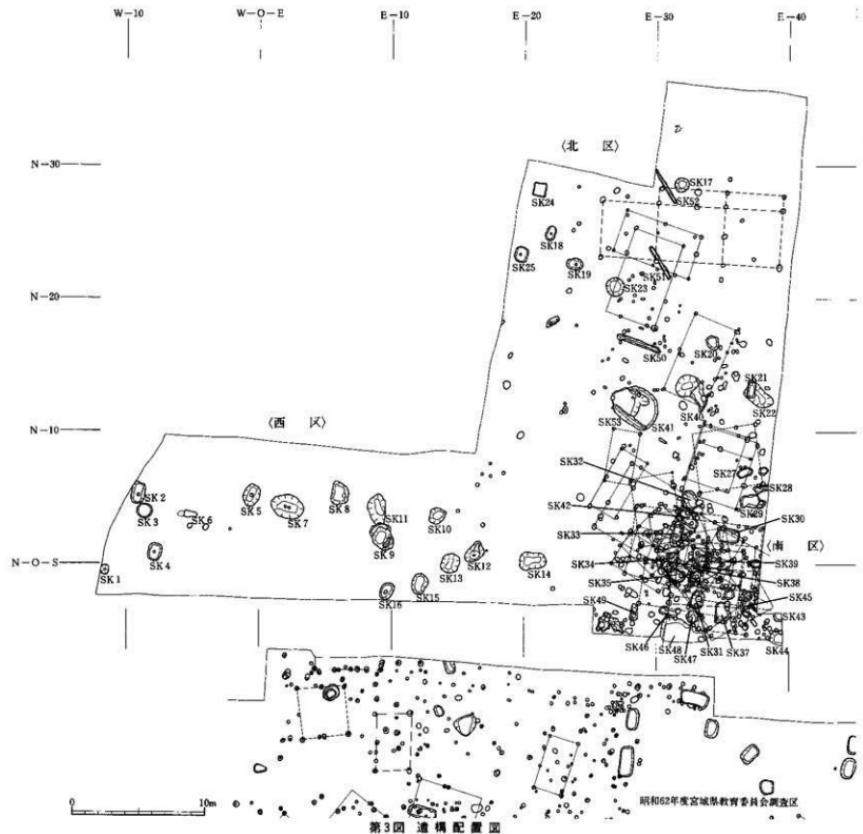
奈良時代の遺跡は梨野A・〃B(13)・本郷(14)・人来田東・羽黒堂・向根東遺跡(15)があるが、各遺跡とも詳細は不明である。

弥生時代から引き続き、古墳・奈良時代を通じて遺跡数も少なく、大規模な集落も作られていない。

平安時代の遺跡は大貝中・沼尻(7)・館前東・中沖・南沖東(16)・右京内(11)・梨野A・〃B・〃C・沼原B・嶺山A・〃C・向根・沼原A・門野山通・坂ノ下・人来田B・〃C・人来田東・佐保山東・御堂平・北前・羽黒堂・羽黒堂前A・〃B・山田上ノ台・汚田通A・〃B(17)青田原西(18)・向根東遺跡がある。奈良時代にくらべ、遺跡数はかなり増加する。沼原A遺跡では堅穴住居跡、嶺山C遺跡では製鉄跡が発見されている。

中世になると茂庭低地を囲む周辺の丘陵には、茂庭大館(2)・嶺館(20)・茂庭西館(25)・茂庭東館(26)などの城館が集中してつくられる。

これらの他にカナクソ遺跡(2)・ノマヤマ遺跡(24)や茂庭西館西側では、鐵滓の散布が認められ、時代は不明であるが、平安時代以降、茂庭地区の丘陵地一帯で鉄生産が行われたものと考えられる。



第3図 造構配図

IV 調査の方法と経過

今回調査の対象となったのは、町田遺跡として周知されていた範囲のうち北東部分にあたり遺跡をほぼ東西に貫く国道286号線敷地内の調査および、試掘調査により、遺跡範囲はさらに北・東側に拡大することが明らかになっていたことから、敷地全域を対象とした。しかし、敷地内北西部分はすでに土取りが成され、遺構検出面が削平されていたことから、これを除外した約1300m²について調査を行った。調査区は対象地区にあわせ不整「」字形に設定し、便宜上、西区・南区・北区の3区に分けて調査を行った。

調査は4月16日から開始した。試掘調査の結果、表土直下の黄褐色シルト層（地山）上面で遺構を確認できたことから、重機により調査区全域の表土排除を行った。表土排除後、人力により、II層上面にて遺構検出作業を行った。5月上旬までに全域の遺構検出作業と測量基準杭の設置作業を終了し、中旬より遺構精査に入った。精査は西区・北区・南区の順に進められた。南区南東隅は特に遺構が密集したことから、20m²程の拡張調査を行った。調査の結果、堅穴住居跡1軒、掘立柱建物跡30棟を含む小柱穴・ビット489、土坑53基等を検出した。これらの遺構については、国家座標を基準とする原点($X = -197,650\text{ m}$, $Y = -3,800\text{ m}$)を設置し、1/20の平面図・断面図を作成し、写真を撮影した。出土遺物は縄文土器・土師器・須恵器・陶器・磁器等の土器類、石器、煙管・古錢等の金属製品、人骨・人歯等であるが、層位・地点・遺構名・番号を付して収納した。調査の成果がほぼまとまった6月14日、郵政局への成果説明を行った他、19日には生出小学校6年児童が見学学習を行った。6月22日、調査を全て終了した。

V 基本層位

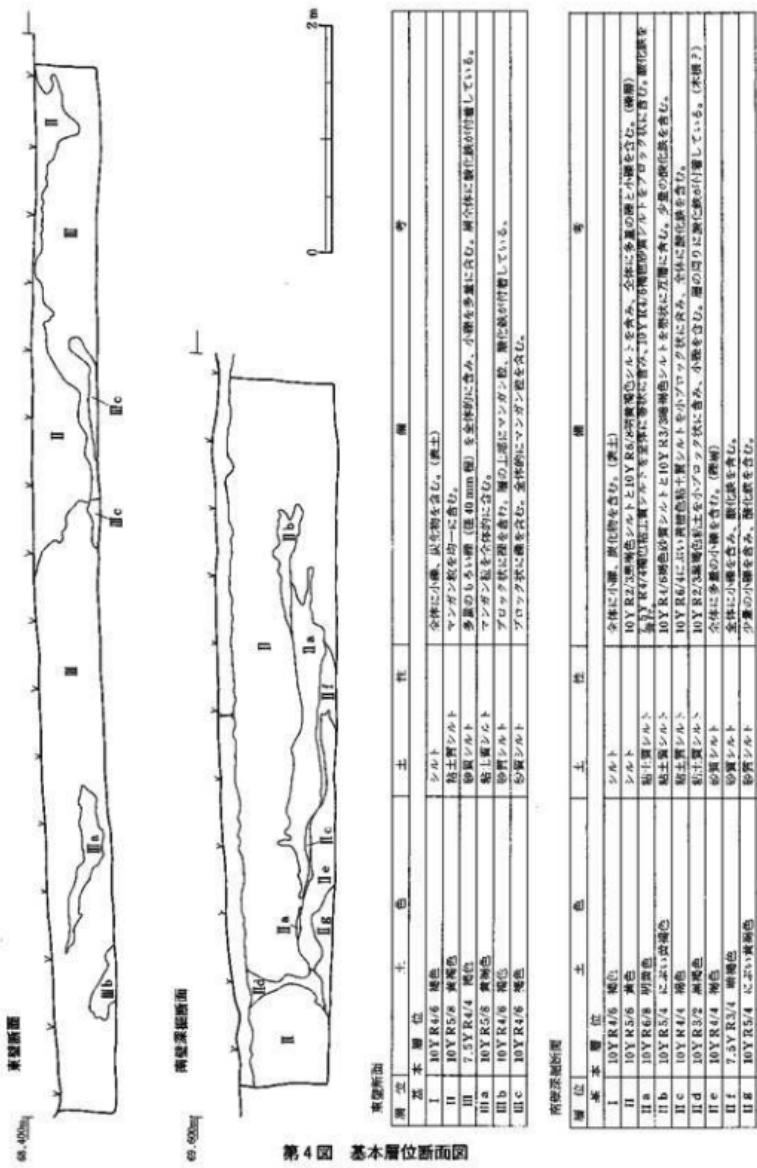
調査区は便宜上、西区・南区・北区の3区に分割し、西区の南西部と北区の北東部で基本層位の確認をするため深掘りをおこなった。

I層 10YR4/6 褐色シルト 表土・耕作土

II層 10YR5/6・5/8 黄褐色シルト・粘土質シルト

III層 7.5YR4/4 褐色砂質シルト

遺構検出面はII層上面である。II・III層には褐色・黄褐色粘土質シルト・砂質シルト等が互層になっている。西区はII層中の礫混入ブロックが検出面上に露出しており、南区・北区はII層が殆どなく、III層が検出面となっている。



第4図 基本層位断面図

VI 発見遺構と出土遺物

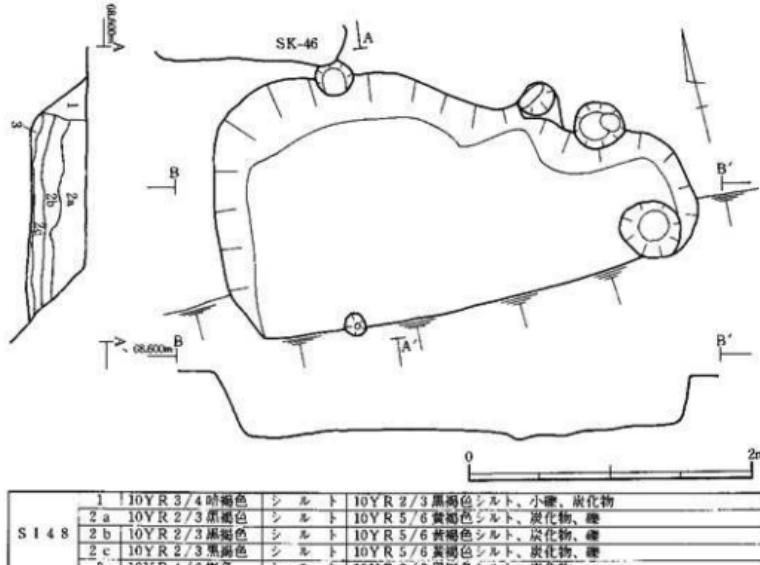
1. 堅穴住居跡

SI48 堅穴住居跡 調査区南拡張区に位置している。南側が既存道路の法面としてすでに削平されているので全容はあきらかではない。上端長軸 350 cm 以上、短軸 180 cm 以上で、平面形は方形を呈すると思われる。深さは 39 cm で、床面は平坦である。堆積土は暗褐色・黒褐色・褐色の 3 層であり、全体に炭化物を含んでいる。遺物は繩文土器片 11 点、K-21~26 石器片 6 点、K-27・28・50 珪化木 3 点、土師器片 13 点、陶磁器片 2 点が出土している。

2. 掘立柱建物跡・塙跡

調査区全体で 489 の小柱穴・ビットが検出され、南区と北区に柱穴と考えられるものがあり、特に南区に集中しており、それらの組合せによって 30 棟の掘立柱建物跡と 1 列の塙跡が確認された。

SB54 建物跡 衍行 3 間、総長 13.7 m (柱間寸法 4.2~5.1 m、平均 3.4 m)、梁行 2 間、総長 4.4 m、(柱間寸法 2.1~2.3 m、平均 3.4 m) の東西棟建物で、建物北側衍行から 1 m 北に西から 2 間分 (総長 9.4 m) の廊もしくは張り出しを持つ。東西柱列の方向は E-3'-S である。柱穴掘り方は直径 28~36 cm、柱痕跡の直径は 10~12 cm である。



第 5 図 堅穴住居跡平・断面図

SB55 建物跡 衍行2間、総長6.0m(柱間寸法3.0m)、梁行1間総長3.2mの東西棟建物で、東西柱列の方向はE-19°-Sである。柱穴掘り方は直径14~28cm、柱痕跡の直径は10~16cmである。

SB56 建物跡 衍行1間、総長4.0m、梁行1間、総長2.0mの南北棟建物で、南北柱列の方向はN-10° Eである。柱穴は直径22~26cmの掘り方を持つ。

SB57 建物跡 衍行4間、総長6.8m(柱間寸法1.4~1.9m、平均1.7m)、梁行2間、総長3.9mの東西棟建物で、東西柱列の方向はE-6°-Sである。柱穴掘り方は直径20~37cm、柱痕跡の直径は14cmである。

SB58 建物跡 衍行2間、総長4.0m(柱間寸法2.0m)、梁行1間、総長2.7mの東西棟建物で、東西柱列の方向はE-10°-Nである。柱穴掘り方は直径22~32cmである。

SB59 建物跡 東西・南北2間、総長4.0m(柱間寸法2.0m)の正方形の建物で、柱穴掘り方は直径28~38cmである。

SB60 建物跡 衍行2間、総長4.3m(柱間寸法2.0~2.3m、平均2.1m)、梁行1間、総長2.4mの東西棟建物で、東西柱列の方向はE-19° Sである。柱穴掘り方は直径22~34cmである。

SB61 建物跡 衍行2間、総長5.3m(柱間寸法2.5~2.8m、平均2.6m)、梁行2間、総長3.7m(柱間寸法1.8~1.9m、平均1.85m)の東西棟建物で、東西柱列の方向はE-26°-Sである。柱穴掘り方は直径18~30cmである。

SB62 建物跡 衍行2間、総長5.2m(柱間寸法2.4~2.8m、平均2.6m)梁行1間、総長2.5mの東西棟建物で、東西柱列の方向はE-10° Nである。柱穴掘り方は直径22~36cmである。

SB63 建物跡 衍行2間、総長3.6m(柱間寸法1.8m)、梁行1間、総長2.25mの東西棟建物で、東西柱列の方向はE-32°-Sである。柱穴掘り方は直径26~30cmである。

SB64 建物跡 衍行3間、総長7.3m(柱間寸法2.2~2.7m平均2.43m)、梁行1間、総長3.6mの東西棟建物で、東西柱列の方向はE-8°-Sである。柱穴掘り方は直径18~36cm、柱痕跡の直径は8~10cmである。

SB65 建物跡 衍行3間、総長6.5m(柱間寸法2.0~2.3m平均2.16m)、梁行2間、総長2.8m(柱間寸法1.4m)の東西棟建物で、東西柱列の方向はE-4°-Sである。柱穴掘り方は直径18~34cm、柱痕跡の直径は8cmである。

SB66 建物跡 衍行2間、総長3.9m(柱間寸法1.8~2.1m平均1.95m)、梁行1間、総長2.6mの東西棟建物で、東西柱列の方向はE-6°-Sである。柱穴掘り方は直径16~28cm、柱痕跡の直径は14cmである。



SB67 建物跡 衍行3間以上、総長6.5m以上(柱間寸法2.0~2.1m平均2.05m)、梁行2間、総長3.2m(柱間寸法1.6m)の東西棟建物で、東西柱列の方向はE-29°-Sである。柱穴掘り方は直径20~26cmである。

SB68 建物跡 衍行1間、総長2.6m、梁行1間、総長2.1mの南北棟建物で、南北柱列の方向はN-12°-Eである。柱穴掘り方は直径16~24cmである。

SB69 建物跡 衍行1間、総長2.8m、梁行1間、総長2.1mの東西棟建物で、東西柱列の方向はE-13°-Sである。柱穴掘り方は直径30~34cmである。

SB70 建物跡 衍行3間、総長5.1m(柱間寸法1.4~2.2m平均1.7m)、梁行1間、総長3.2mの南北棟建物で、南北柱列の方向はN-9°-Wである。柱穴掘り方は直径18~24cm、柱痕跡の直径は18cmである。

SB71 建物跡 衍行2間、総長4.4m(柱間寸法2.0~2.4m平均2.2m)、梁行1間、総長3.2mの南北棟建物で、南北柱列の方向はN-45°-Eである。柱穴掘り方は直径22cmである。

SB72 建物跡 衍行3間、総長5.5m(柱間寸法1.6~2.2m平均1.8m)、梁行2間、総長3.7m(柱間寸法1.7~2.0m平均1.85m)の東西棟建物で、東西柱列の方向はE-13°-Sである。柱穴掘り方は直径22~34cm、柱痕跡の直径は8cmである。

SB73 建物跡 衍行3間、総長6.1m(柱間寸法1.8~2.3m平均2.03m)、梁行2間、総長5.0m(柱間寸法2.3~2.7m平均2.5m)の東西棟建物で、東西柱列の方向はE-6°-Sである。柱穴掘り方は直径20cmである。

SB74 建物跡 衍行3間、総長5.2m(柱間寸法1.6~2.0m平均1.73m)、梁行1間、総長4.2mの東西棟建物で、東西柱列の方向はE-30°-Nである。柱穴掘り方は直径24~28cm、柱痕跡の直径は16cmである。

SB75 建物跡 衍行3間、総長6.6m(柱間寸法2.1~2.3m平均2.2m)、梁行1間、総長4.0mの南北棟建物で、南北柱列の方向はN-19°-Eである。柱穴掘り方は直径20~32cm、柱痕跡の直径は18cmである。

SB76 建物跡 衍行3間、総長6.3m(柱間寸法1.7~2.3m平均2.1m)、梁行1間、総長3.75mの南北棟建物で、南北柱列の方向はN-22°-Eである。柱穴掘り方は直径18~26cmである。

SB77 建物跡 衍行1間、総長4.8m、梁行2間、総長4.5m(柱間寸法1.2~1.3m平均1.25m)の東西棟建物で、東西柱列の方向はE-9°-Nである。柱穴掘り方は直径24~28cmである。

SB78 建物跡 衍行1間、総長4.3m、梁行1間、総長2.6mの南北棟建物で、南北柱列の方向はN-19°-Eである。柱穴掘り方は直径18~20cmである。また南北衍行から西に0.7mのところに廂もしくは張り出しを持つ。

SB79 建物跡 衍行1間、総長4.2m、梁行2間、総長4.0m(柱間寸法2.0m)の東西棟

建物で、東西柱列の方向は E-19°-S である。柱穴掘り方は直径 18~40 cm である。また東西桁列から北に 0.8 m のところに廂もしくは張り出しを持つ。

SB80 建物跡 桁行 2 間、総長 4.8 m (柱間寸法 2.2~2.5 m 平均 2.35 m)、梁行 1 間、総長 2.2 m の南北棟建物で、南北柱列の方向は N-30°-E である。柱穴掘り方は直径 22~28 cm である。

SB81 建物跡 桁行 3 間、総長 5.8 m (柱間寸法 1.8~2.0 m 平均 1.93 m)、梁行 2 間、総長 5.5 m (柱間寸法 2.0~3.5 m 平均 2.75 m) の東西棟建物で、東西柱列の方向は E-30°-S である。柱穴掘り方は直径 18~42 cm である。

SB82 建物跡 桁行 1 間、総長 4.2 m、梁行 1 間、総長 2.8 m の東西棟建物で、東西柱列の方向は E-30°-S である。柱穴掘り方は直径 24~30 cm、柱痕跡は直径 16 cm である。

SB83 建物跡 桁行 2 間、総長 6.6 m (柱間寸法 2.6~4.0 m 平均 3.3 m)、梁行 1 間、総長 2.8 m の南北棟建物で、南北柱列の方向は N-6°-E である。柱穴掘り方は直径 24~32 cm である。また南北桁列から西に 0.8 m のところに柱間 3 間 (柱間寸法 1.9~3.0 m 平均 2.2 m) の廂もしくは張り出しを持つ。

SA84 塙跡 東西 3 間以上、総長 6.5 m 以上 (柱間寸法 2.1~2.2 m) でさらに東にのびる。柱列の方向は E-8°-S である。柱穴掘り方は直径 50~80 cm、柱痕跡は直径 10~12 cm である。西端は途切れているが、南に屈曲して延びる可能性もある。

3. 土 坑

SK1 土坑

調査区西区に位置している。土坑の西側が調査区外にのびるため全容は明確ではない。上端径約 76 cm、平面形はほぼ円形を呈していると思われる。下端径 20 cm、底面はほぼ平坦で、平面形はほぼ円形を呈している。深さは 13 cm、壁は緩やかに立ち上がるが、南側で中位に段を持つ。堆積土は黄褐色、明黄褐色シルトで、全体に小礫を含む。出土遺物はない。

SK2 土坑

調査区西区に位置している。上端長軸 160 cm、短軸 74 cm、平面形は不整椭円形を呈している。下端長軸 138 cm、短軸 50 cm、底面はほぼ平坦で、平面形は隅丸長方形を呈している。深さは 66 cm、壁は急角度に立ち上がり断面形は逆台形である。底面中央やや南寄りにピットを 1 基有する。上端径 18 cm で、平面形は円形を呈している。深さは 50 cm、西側にむかって斜めに掘り込まれている。堆積土は黒褐色、暗褐色シルトで、2 層の上面に礫を含んでいる。遺物は、縄文土器片 2 点を出土している。

SK4 土坑

調査区西区に位置している。上端長軸 130 cm、短軸 98 cm、平面形は椭円形を呈している。

下端長軸 115 cm、短軸 68 cm、底面は平坦で、平面形は南側がとびでた不整梢円形を呈している。深さは 76 cm、壁はほぼ垂直に立ち上がっている。底面中央にピットを 1 基有する。上端径 18 cm、平面形は円形を呈している。深さは 28 cm で、円錐形に掘り込まれている。堆積土は暗褐色、黒褐色シルトで、全体的に小礫を含んでいる。遺物は、刺片 K-43 (第14図4) 他 1 点、縄文土器片 13 点を出土している。

SK5 土坑

調査区西区に位置している。上端長軸 166 cm、短軸 117 cm、平面形は梢円形を呈している。下端軸 110 cm、短軸 45 cm、底面はほぼ平坦で平面形は鵠丸長方形を呈している。深さは 86 cm、壁は開口部へ向かって外傾している。断面形は逆台形を呈している。底面中央ピットを 1 基有する。上端径 20 cm、平面形は円形を呈している。深さは 60 cm、垂直に掘り込まれている。堆積土は暗褐色、にぶい黄褐色シルトで、全体に礫を含んでいる。遺物は、縄文土器 A-12 (第15図9) を出土している。

SK6 土坑

調査区西区に位置している。上端長軸 95 cm、短軸 45 cm、平面形は不整形を呈している。下端長軸 110 cm、短軸 20 cm で、西へオーバーハングしている。平面形は不整梢円形を呈している。断面形は逆台形である。堆積土は、黒褐色シルトである。出土遺物はない。

SK7 土坑

調査区西区に位置している。上端長軸 250 cm、短軸 178 cm、平面形は梢円形を呈している。下端長軸 154 cm、短軸 70 cm、底面はほぼ平坦で、平面形は不整鵠丸長方形を呈している。深さは 100 cm あり、壁は開口部へ向かって外傾している。断面形は逆台形である。また、底面中央にはピットを 2 基有する。どちらも平面形はほぼ円形を呈しており、西側のピットは上端径 20 cm、深さは 36 cm で、ほぼ垂直に掘り込まれている。東側のピットは上端径 18 cm、深さは 44 cm で、ほぼ垂直に掘り込まれている。堆積土は黒褐色、暗褐色シルト、褐色粘土質シルト、にぶい黄褐色粘土質シルトで、全体的に小礫を含む。遺物は、刺片 K-18 (第13図11) を出土している。

SK9 土坑

調査区西区に位置している。上端長軸 219 cm、短軸 148 cm、平面形は不整梢円形を呈している。下端長軸 94 cm、短軸 66 cm、底面は中央がやや凹んだ船底形で、平面形は不整梢円形を呈している。深さは 70 cm、壁は緩やかに立ち上がり、南側に段が認められる。堆積土は暗褐色、にぶい黄褐色シルトで、全体に小礫を多く含む。出土遺物はない。SK11 土坑を切っている。

SK10 土坑

調査区西区に位置している。北側の一部がすでに削平されており、平面形は明確ではない。上端長軸 115 cm 以上、短軸 114 cm 以上と推定される。深さは 40 cm で底面はほぼ平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。堆積土は黒褐色、暗褐色シルトである。出土遺物はない。

SK11 土坑

調査区西区に位置している。上端長軸 200 cm 以上、短軸 121 cm、平面形は不整橢円形を呈していると推定される。深さは 63 cm、底面は凸凹している。壁は緩やかに立ち上がり中位に段をもっている。堆積土は暗褐色、黒褐色シルトである。遺物は、石器 K-10 (第13図9) 他 1 点、縄文土器片 3 点を出土している。SK9 号土坑に切られている。

SK12 土坑

調査区西区に位置している。上端長軸 149 cm、短軸 89 cm、平面形は不整橢円形を呈している。下端長軸 80 cm、短軸 48 cm、底面は中央部が凹んだ船底形で、平面形は不整橢円形を呈している。深さは 76 cm、壁は緩やかに立ち上がる。また、底面中央にピットを 1 基有する。上端径 16 cm、平面形は橢円形である。深さは 15 cm で、垂直に掘り込まれている。堆積土は黒褐色、褐色シルト、暗褐色粘土質シルトで、小礫を多く含んでいる。遺物は、土師器片 1 点が出土している。

SK13 土坑

調査区西区に位置している。上端長軸 147 cm、短軸 122 cm、平面形は不整橢円形を呈している。下端長軸 81 cm、短軸 34 cm で、底面は北西側に傾き、平面形は不整橢円形を呈している。深さは 98 cm、壁は角度を持って立ち上がり、断面形は逆台形である。堆積土は暗褐色、黒褐色シルト、褐色砂質シルトで、全体に小礫を多く含んでいる。出土遺物はない。

SK14 土坑

調査区西区に位置している。上端長軸 193 cm、短軸 115 cm、平面形は不整橢円形を呈している。下端長軸 120 cm、短軸 43 cm、底面はほぼ平坦であり平面形は隅丸長方形を呈している。深さは 86 cm で、壁は角度をもって立ち上がり、断面形は逆台形である。堆積土は黒褐色シルト、暗褐色砂質シルトで、下層になるほど砂質になる。出土遺物はない。

SK15 土坑

調査区西区に位置している。上端長軸 152 cm、短軸 111 cm、平面形は橢円形を呈している。下端長軸 126 cm、短軸 57 cm、底面は中央がやや凹んでおり平面形は不整形を呈している。深さは 86 cm で、壁は開口部へ向かって外傾している。断面形は逆台形である。堆積土は黒褐色シルト、褐色粘土質シルトで、上層に小礫を多く含む。出土遺物はない。

SK16 土坑

調査区西区に位置している。上端長軸 121 cm、短軸 93 cm、平面形は橢円形を呈している。

下端長軸 102 cm、短軸 43 cm、底面は平坦で、平面形は橢円形を呈している。深さは 80 cm である。壁は、ほぼ垂直に立ち上がる。また、底面中央にピットを 1 基有する。上端径 24 cm で、平面形は橢円形を呈している。深さは 60 cm、ほぼ垂直に掘り込まれている。堆積土は暗褐色、黒褐色シルトで、全体に小礫を多く含む。出土遺物はない。

SK18 土坑

調査区北区に位置している。上端長軸 112 cm、短軸 69 cm、平面形は橢円形を呈する。下端長軸 106 cm、短軸 52 cm、底面は平坦であり平面形は隅丸長方形を呈している。深さは 38 cm、壁は北東側で若干オーバーハングするがほぼ垂直に立ち上がる。また、底面中央にピットを 1 基有する。上端径 14 cm、平面形は円形を呈している。深さは 44 cm、円錐形に掘り込まれている。堆積土は暗褐色シルト、褐色粘土質シルトである。出土遺物はない。

SK19 土坑

調査区北区に位置している。上端長軸 124 cm、短軸 86 cm、平面形は橢円形を呈している。下端長軸 96 cm、短軸 51 cm、底面は中央が凹んだ船底形で、平面形は隅丸長方形を呈している。深さは 60 cm、壁は西側に少し外傾するがほぼ垂直に立ち上がる。また、底面中央にピットを 1 基有する。上端径 18 cm、平面形は橢円形を呈している。深さは 41 cm、斜めに掘り込まれている。堆積土は褐色シルト質粘土、暗褐色粘土質シルトである。出土遺物はない。

SK20 土坑

調査区北区に位置している。上端長軸 116 cm、短軸 88 cm、平面形は不整形を呈している。下端長軸 82 cm、短軸 54 cm、底面は中央が凹んだ船底形で、平面形は不整橢円形を呈している。深さは 19 cm、壁は緩やかに立ち上がる。堆積土は黒褐色シルト、褐色粘土質シルトで全体に小礫を含んでいる。出土遺物はない。

SK21 土坑

調査区北区に位置している。上端長軸 120 cm、短軸 60 cm、平面形は隅丸長方形を呈する。下端長軸 104 cm、短軸 80 cm、平面形は隅丸長方形を呈している。堆積土は暗褐色シルトである。遺物は、石鏡 K-9（第13図5）が出土している。SK22 土坑を切っている。

SK22 土坑

調査区北区に位置している。上端長軸 224 cm、短軸 124 cm、平面形は不整隅丸長方形を呈している。下端長軸 130 cm、短軸 23 cm で、平面形は不整な長橢円形を呈している。深さは 59 cm で、壁は、緩やかに立ち上がる。堆積土は暗褐色、褐色粘土質シルトで、全体に小礫と炭化物を含んでいる。出土遺物はない。SK21 土坑に切られている。

SK23 土坑

調査区北区に位置している。上端径 140 cm で、平面形はほぼ円形を呈している。深さは 50

cm、底面は平坦で、壁は開口部へ向かって外傾し途中からより強く外傾する。堆積土は暗褐色シルト、にぶい黄褐色シルト質粘土で、酸化鉄を多量に含んでいる。出土遺物はない。

SK24 土坑

調査区北区に位置している。東西方向が若干短いが、ほぼ幅 100 cm の正方形を呈している。深さは 16 cm、底面は平坦で、壁は垂直に立ち上がる。堆積土は黒褐色シルト、暗褐色シルト質粘土である。出土遺物はない。

SK25 土坑

調査区北区に位置している。上端長軸 114 cm、短軸 100 cm、平面形は隅丸長方形を呈している。下端長軸 108 cm、短軸 66 cm、底面は中央が凹んだ船底形で、平面形は隅丸長方形を呈している。深さは 45 cm、壁はほぼ垂直に立ち上がる。また、底面中央にピットを 1 基有する。上端径 16 cm、平面形は橢円形である。深さは 30 cm、垂直に掘り込まれている。堆積土は暗褐色粘土質シルトで、全体に礫を含んでいる。出土遺物はない。

SK27 土坑

調査区南区に位置している。上端長軸 115 cm、短軸 58 cm、平面形は不整橢円形を呈している。下端長軸 101 cm、短軸 43 cm、平面形は不整橢円形である。深さは 5 cm、底面はほぼ平坦である。出土遺物はない。

SK28 土坑

調査区南区に位置している。東側の一部が調査区外に伸びるため詳細は明確ではない。上端長軸 112 cm 以上、短軸 42 cm 以上、平面形は不整形を呈するものと推定される。出土遺物はない。

SK29 土坑

調査区南区に位置している。長軸 134 cm、短軸 95 cm、平面形は不整形を呈している。下端長軸 124 cm、短軸 51 cm、底面は凸凹している。深さは 11 cm、壁はゆるやかに立ち上がる。堆積土は褐色、暗褐色シルトである。出土遺物はない。ピット 490 に切られている。

SK30 土坑

調査区南区に位置している。上端長軸 167 cm、短軸 99 cm、平面形は隅丸長方形を呈している。下端長軸 138 cm、短軸 80 cm、底面はほぼ平坦で、平面形は隅丸長方形を呈している。深さは 26 cm、壁は開口部へ向かって外傾している。堆積土は黒褐色シルト、にぶい黄褐色粘土質シルトであり、全体に小礫と炭化物を若干含む。出土遺物はない。ピット 230、241 に切られている。

SK31 土坑

調査区南区に位置している。上端長軸 144 cm、短軸 94 cm、平面形は不整橢円形を呈して

いる。下端長軸 104 cm、短軸 74 cm 底面はほぼ平坦で、平面形は不整橢円形を呈している。深さは 56 cm、壁は西側で垂直に立ち上がるが、東側はなだらかである。底面にピット状の落ち込みが 3 基ある。堆積土は暗褐色シルト、にぶい黄橙色粘土質シルトである。遺物は、土師器片 2 点と摩滅し形態の不明の土器片 5 点が出土している。ピット 107 を切っている。

SK32 土坑

調査区南区に位置している。上端長軸 149 cm、短軸 90 cm、平面形は隅丸長方形を呈している。下端長軸 132 cm、短軸 52 cm、底面はほぼ平坦で、平面形は不整橢円形を呈している。深さは 14 cm、壁は緩やかに立ち上がる。堆積土は褐色粘土質シルト、褐色粘土質シルトで躊躇が多く含む。遺物は、縄文土器 A-14 (第15図11) を出土している。SK36 土坑に切られている。

SK33 土坑

調査区南区に位置している。上端長軸 173 cm、短軸 82 cm、平面形は隅丸長方形を呈している。下端長軸 136 cm、短軸 60 cm、底面は平坦で、平面形は隅丸長方形を呈している。深さは 25 cm、壁は緩やかに立ち上がる。堆積土は、暗褐色シルト、黄褐色粘土質シルトで全体に酸化鉄、炭化物を含む。遺物は、剝片 K-37 (第13図 6)、縄文土器片 3 点を出土している。ピット 114、124 に切られている。

SK34 土坑

調査区南区に位置している。上端径 92 cm で、平面形はほぼ円形を呈している。下端径 60 cm、深さは 7~14 cm、東側に傾斜しており平面形は橢円形である。堆積土は黒褐色、黄褐色シルトである。遺物は、縄文土器片 2 点を出土している。ピット 116、117、118 に切られている。

SK35 土坑

調査区南区に位置している。上端長軸 130 cm、短軸 80 cm、平面形は不整形を呈している。下端長軸 110 cm、短軸 66 cm、底面はほぼ平坦で、平面形は不整形を呈している。深さは 16 cm、壁は緩やかに立ち上がる。堆積土は暗褐色、褐色シルトである。遺物は、土師器片 5 点が出土している。ピット 120、127、130、131 に切られている。

SK36 土坑

調査区南区に位置している。上端長軸 60 cm、短軸 42 cm、平面形は橢円形を呈している。下端長軸 33 cm、短軸 22 cm、平面形は橢円形を呈している。深さは 13 cm である。出土遺物はない。SK32 土坑を切っている。

SK37 土坑

調査区南区に位置している。上端長軸 140 cm、短軸 100 cm、平面形は南西にとびた不整形を呈している。下端長軸 120 cm、短軸 82 cm、底面はほぼ平坦で、平面形は不整形を呈し

ている。深さは 40 cm、壁は緩やかに立ち上がる。堆積土は暗褐色、黒褐色シルトである。遺物は縄文土器片 1 点、土師器片 4 点、須恵器片 1 点、磁器片 1 点が出土している。ピット 44、461 に切られている。

SK38 土坑

調査区南区に位置している。上端長軸 106 cm、短軸 82 cm、平面形は梢円形を呈している。下端長軸 94 cm、短軸 30 cm、底面は中央がやや凹んだ船底形で、平面形は不整形を呈している。深さは 9 cm、壁は緩やかに立ち上がる。堆積土は黒褐色シルト、にぶい黄橙色粘土質シルトである。出土遺物はない。SK39 土坑を切っている。

SK39 土坑

調査区南区に位置している。上端長軸 124 cm、短軸 84 cm、平面形は不整梢円形を呈している。下端長軸 106 cm、短軸 68 cm、底面はほぼ平坦で、平面形は不整梢円形を呈している。深さは 14 cm で、壁は開口部へ向かって外傾している。堆積土は暗褐色、黒褐色シルトである。出土遺物はない。SK38 土坑、ピット 65、491、492、493 に切られている。

SK40 土坑

調査区北区に位置している。上端長軸 172 cm、短軸 140 cm、平面形は不整梢円形を呈している。下端長軸 88 cm、短軸 50 cm、底面はほぼ平坦で、平面形は隅丸長方形を呈している。深さは 87 cm、壁は開口部に向かって外傾し、断面形は逆台形である。また、底面南寄りにピットが 1 基ある。上端長軸 24 cm、短軸 20 cm、深さは 10 cm である。平面形は不整梢円形である。堆積土は黒褐色、暗褐色シルト、褐色粘土質シルトである。出土遺物はない。

SK41 土坑

調査区北区に位置している。上端長軸 384 cm、短軸 274 cm、平面形は不整梢円形を呈している。下端長軸 245 cm、短軸 202 cm、底面はほぼ平坦で、平面形は不整梢円形を呈している。深さは 40 cm、壁は開口部へ向かっている外傾している。堆積土は暗褐色、褐色シルト、黒褐色粘土質シルトで全体に小隙を含んでいる。遺物は、縄文土器片 4 点が出土している。SK53 土坑、ピット 336、337、341 に切られている。

SK42 土坑

調査区南区に位置している。上端長軸 168 cm、短軸 88 cm、平面形は不整形を呈している。下端長軸 154 cm、短軸 64 cm、底面はほぼ平坦で、平面形は不整形を呈している。深さは 10 cm、壁は緩やかに立ち上がる。堆積土は暗褐色、褐色シルトである。出土遺物はない。ピット 229、231 に切られている。

SK43 土坑

調査区南区に位置している。土坑の北側および東側が調査区外へ伸びるため、詳細は明確で

はない。上端長軸 60 cm 以上、短軸 58 cm 以上と推定される。平面形は方形を呈するものと思われる。底面は平坦であり、深さは 42 cm で壁は垂直に立ち上がる。堆積土は黒褐色、暗褐色シルトである。遺物は、縄文土器片が 1 点出土している。

SK44 土坑

調査区南区に位置している。土坑の南側および東側が調査区外へ伸びるため、詳細は明確ではない。上端長軸 102 cm 以上、短軸 88 cm 以上と推定される。平面形は方形を呈するものと思われる。底面は平坦であり、深さは 45 cm、壁は垂直に立ち上がる。堆積土は黒褐色シルトである。遺物は、土師器片 1 点、珪化木 2 点が出土している。ピット 444 に切られている。

SK45 土坑

調査区南区に位置している。土坑の東側が擾乱されており、詳細は明確ではない。上端長軸 165 cm 以上、短軸 94 cm 以上と推定される。出土遺物はない。ピット 468 に切られ、ピット 470 を切っている。

SK46 土坑

調査区南区に位置している。上端長軸 138 cm、短軸 45 cm、平面形は不整隅丸長方形を呈している。下端長軸 121 cm、短軸 34 cm、底面はほぼ平坦である。深さは 17 cm である。出土遺物はない。ピット 473 に切られ、ピット 139、474、476 を切っている。

SK47 土坑

調査区南区に位置している。上端長軸 101 cm、短軸 76 cm、平面形は不整梢円形を呈している。下端長軸 60 cm、短軸 40 cm、底面はほぼ平坦で、平面形は不整形を呈している。深さは 21 cm、壁は緩やかに立ち上がる。堆積土は黒褐色、褐色シルトで若干の小礫を全体に含む。遺物、宋銭 N~4 (第16図 2) が出土している。

SK49 土坑

調査区南区に位置している。上端長軸 126 cm、短軸 50 cm、平面形は隅丸長方形を呈している。下端長軸 80 cm、短軸 30 cm、底面中央に幅 14 cm 程の溝状の落ち込みがある。深さは 90 cm、壁は垂直に立ち上がる。堆積土は黒褐色、褐色シルト、にぶい黄橙色粘土で酸化鉄を全体に含む。遺物は、宋銭 1 点が出土している。ピット 481、482 に切られている。

SK50 土坑

調査区北区に位置している。上端長軸 348 cm、短軸 40 cm、平面形は長梢円形を呈している。下端長軸 318 cm、短軸 16 cm、底面は船底形で、平面形は長梢円形を呈している。深さは 40 cm、壁はほぼ垂直に立ち上がる。出土遺物はない。ピット 335 に切られている。

SK51 土坑

調査区北区に位置している。上端長軸 280 cm、短軸 28 cm、平面形は長梢円形を呈してい

る。下端長軸 270 cm、短軸 16 cm、底面は船底形で、平面形は長楕円形を呈している。深さは 30 cm、壁は緩やかに立ち上がる。出土遺物はない。ピット 407 に切られている。

SK52 土坑

調査区北区に位置している。上端長軸 299 cm、短軸 25 cm、平面形は長楕円形を呈している。下端長軸 296 cm、短軸 13 cm、底面は凸凹しており南東側で若干オーバーハングし、平面形は長楕円形である。深さは 25 cm、壁はほぼ垂直に立ち上がる。また、中央にピットが 1 基あり、平面形はほぼ円形である。上端径 10 cm、深さ 16 cm で垂直に掘り込まれている。堆積土は暗褐色、褐色シルトである。出土遺物はない。

SK53 土坑

調査区北区に位置している。上端長軸 297 cm、短軸 56 cm、平面形は長楕円形を呈している。下端長軸 284 cm、短軸 20 cm、底面はほぼ平坦で、平面形は長楕円形をしている。深さは 29 cm、両端がオーバーハングしている。出土遺物はない。SK41 土坑を切っている。

4. 墓 墓 墓

今回の調査では出土遺物などから明らかに江戸時代以降と考えられる墓壙が 3 基検出されている。

SK3 墓壙

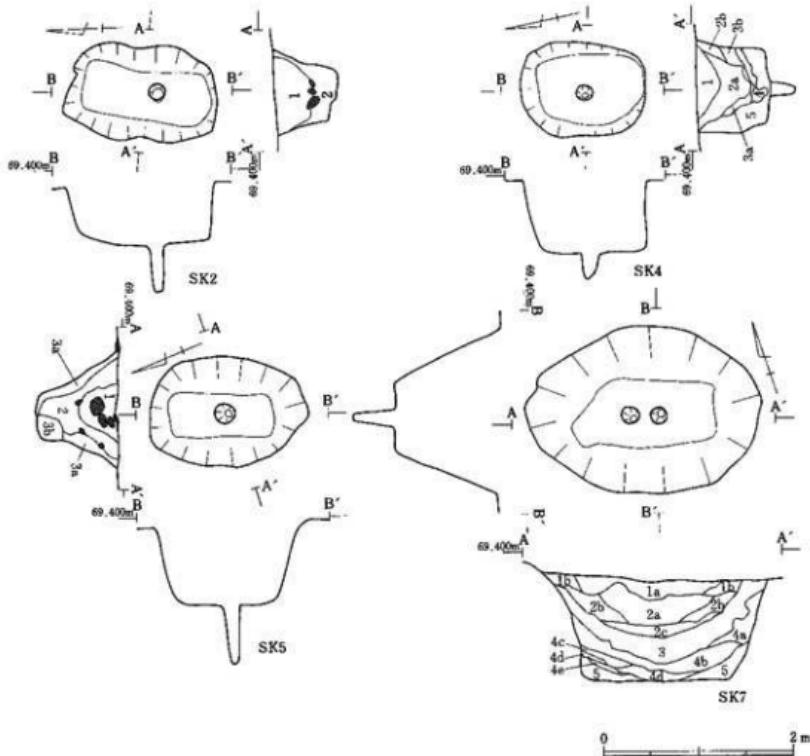
調査区西区に位置している。上端径 112 cm で、平面形はほぼ円形を呈している。深さは 69 cm、底面は中央部がやや凹んでおり、壁は直角に立ち上がる。堆積土は 4 層で、人為的に土を被せていったような層相を呈している。底部に、炭化物が堆積しているところがあり、また、層中にも炭化物の堆積が見られる。3 層中から人骨片が検出されているが、その遺存状態は極めて悪く細片である。その他に出土遺物はない。

SK8 墓壙

調査区西区に位置している。上端長軸 194 cm、短軸 123 cm で、平面形は不整楕円形を呈している。深さは 40 cm で、底面は平坦であり壁はほぼ垂直に立ち上がる。堆積土は 4 層で、人為的に土を被せていったような層相を呈している。底面東側に炭化物の集中したところがあり、寛永通宝 N-2-1~6 (第16図9~14) が出土している。また、人骨片も出土しているが細片である。

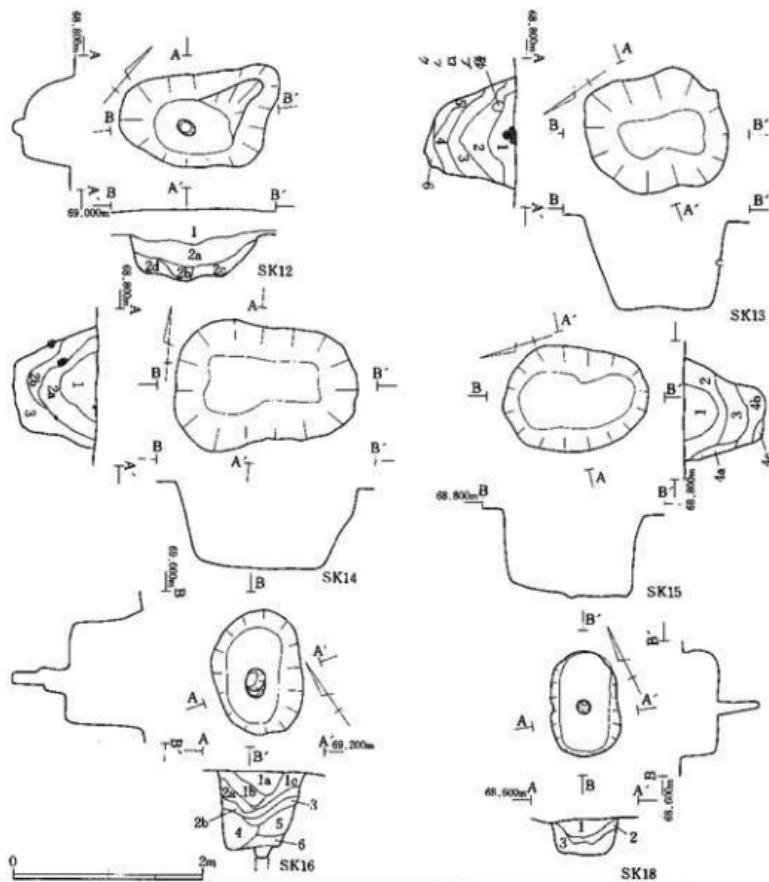
SK17 墓壙

調査区北区に位置している。上端径 104 cm で平面形はほぼ円形を呈している。深さは 49 cm で、壁は開口部に向かってやや開いた形に立ち上がっている。堆積土は 3 層で、人為的に土を被せていったような層相を呈している。底面には、桶底板が遺存状態は良くないものもほぼ完形で残っていた。遺物は、人骨片、人歯、寛永通宝 N-1-1~6 (第16図3~8)、煙管 N-6 (第



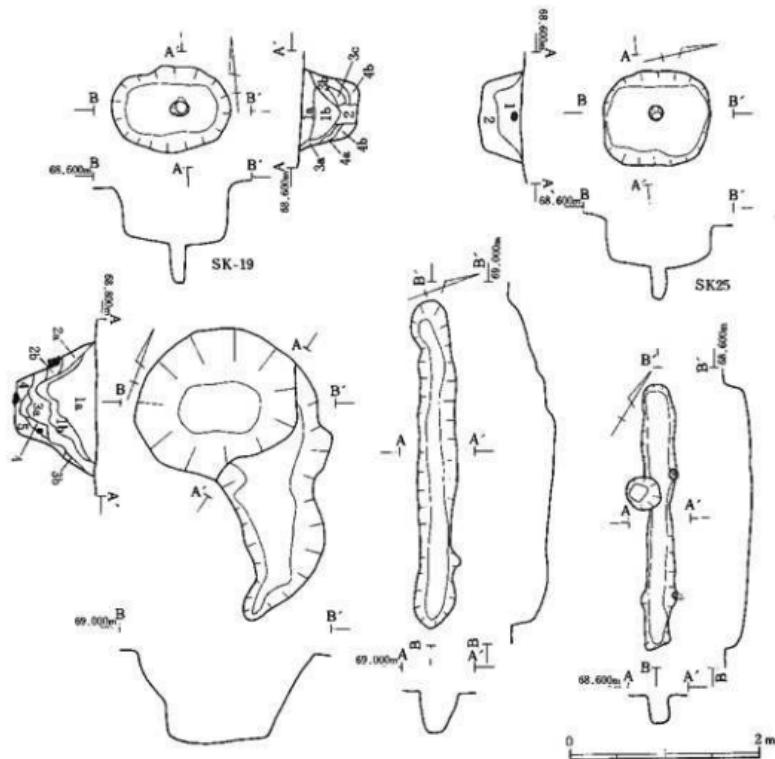
SK 2	1. 10Y R 2/3 黄褐色	シルト	10Y R 4/6 黄褐色シルト、小砾。
	2. 10Y R 3/4 黑褐色	シルト	10Y R 6/7 黑褐色シルト、腐化粘土。
	3. 10Y R 2/3 黑褐色	シルト	小砾。
	3 a. 10Y R 2/3 黑褐色	粘土質シルト	10Y R 5/6 黑褐色シルト。
	3 b. 10Y R 2/3 黑褐色	粘土質シルト	上部のより若干人きめの細粒黑色粘。
	3 c. 10Y R 2/3 黑褐色	シルト	10Y R 4/5 黑褐色シルト。
	3 d. 10Y R 2/3 黑褐色	シルト	小砾。
	4. 10Y R 2/3 黑褐色	シルト	細。
	5. 10Y R 2/3 黑褐色	砂質シルト	小砾。
SK 4	1. 10Y R 3/4 黑褐色	シルト	小砾、若干の閃長岩。
	2. 10Y R 3/4 黑褐色	シルト	10Y R 5/6 黑褐色シルト、小砾。
	3 a. 10Y R 3/4 黑褐色	シルト	10Y R 5/6 黑褐色シルト、小砾。
	3 b. 10Y R 3/4 黑褐色	シルト	小砾。
SK 5	1. 10Y R 3/4 黑褐色	シルト	小砾。
	2. 10Y R 3/4 黑褐色	シルト	小砾。
	3 a. 10Y R 3/4 黑褐色	シルト	10Y R 5/6 黑褐色シルト、小砾。
	3 b. 10Y R 3/4 黑褐色	シルト	小砾。
SK 7	1. 10Y R 3/4 黑褐色	シルト	小砾。
	1 b. 10Y R 3/4 黑褐色	シルト	10Y R 2/3 黑褐色粘土質シルト。
	2. 10Y R 3/4 黑褐色	シルト	小砾。
	2 b. 10Y R 3/4 黑褐色	シルト	小砾。
	2 c. 10Y R 3/4 黑褐色	シルト	小砾。
	3. 10Y R 2/3 黑褐色	シルト	10Y R 5/6 黑褐色シルト、10Y R 4/5 黑褐色シルト。
	4 a. 10Y R 2/3 黑褐色	シルト	10Y R 2/3 黑褐色シルト。
	4 b. 10Y R 4/5 黑褐色	粘土質シルト	10Y R 2/3 黑褐色シルト、10Y R 1/1 黑色粘土質シルト。
	4 c. 10Y R 2/3 黑褐色	シルト	10Y R 2/3 黑褐色粘土、灰白色。
	4 d. 10Y R 2/3 黑褐色	粘土質シルト	10Y R 2/3 黑褐色粘土質シルト、10Y R 6/9 黑褐色粘土。
	5. 10Y R 4/5 黑褐色	シルト	10Y R 5/6 黑褐色シルト。
	地表質シルト		小砾。

第7図 土坑平・断面図



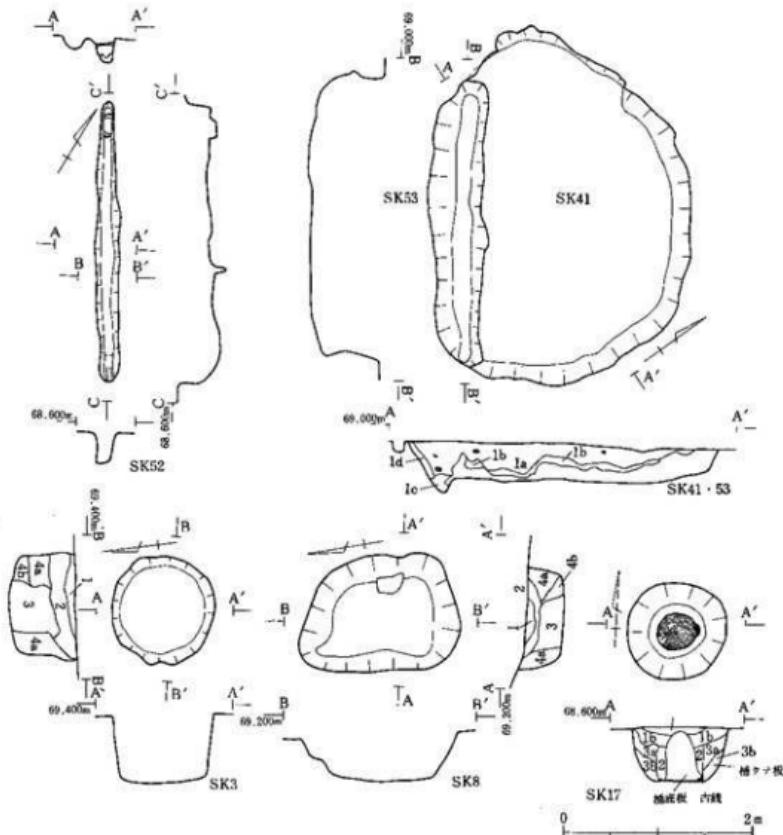
S-K12	1	10Y R 1/2薄緑色	シルト	10Y 4/4薄緑色シルト、無
	2	10Y R 1/2薄緑色	シルト	10Y 4/4薄緑色シルト、小粒
	2.5	10Y R 1/2薄緑色	粘土質シルト	10Y 4/4薄緑色シルト
	3	10Y R 1/2薄緑色	シルト	10Y 4/4薄緑色シルト、小粒
	2.5	10Y R 1/4薄緑色	シルト	10Y 4/4薄緑色シルト、小粒
S-K13	1	10Y R 1/2薄緑色	シルト	10Y 4/4薄緑色シルト、無
	2	10Y R 1/2薄緑色	シルト	10Y 4/4薄緑色シルト、無
	2.5	10Y R 1/4薄緑色	シルト	10Y 4/4薄緑色シルト
	3	10Y R 1/2薄緑色	シルト	10Y 4/4薄緑色シルト、無
	2.5	10Y R 1/4薄緑色	シルト	10Y 4/4薄緑色シルト、無
S-K14	1	10Y R 1/2薄緑色	シルト	10Y 4/4薄緑色シルト、無
	2	10Y R 1/2薄緑色	シルト	10Y 4/4薄緑色シルト、無
	2.5	10Y R 1/4薄緑色	シルト	10Y 4/4薄緑色シルト
	3	10Y R 1/2薄緑色	シルト	10Y 4/4薄緑色シルト、無
	2.5	10Y R 1/4薄緑色	シルト	10Y 4/4薄緑色シルト、無
S-K15	1	10Y R 1/2薄緑色	シルト	10Y 4/4薄緑色シルト、無
	2	10Y R 1/2薄緑色	シルト	10Y 4/4薄緑色シルト、無
	2.5	10Y R 1/2薄緑色	砂質シルト	10Y 4/4薄緑色シルト
	3	10Y R 1/2薄緑色	砂質	もじり感
	1	10Y R 1/2薄緑色	シルト	無
S-K16	2	10Y R 1/2薄緑色	シルト	10Y 4/4薄緑色シルト、小粒
	3	10Y R 1/2薄緑色	シルト	10Y 4/4薄緑色シルト、小粒
	4	10Y R 1/2薄緑色	シルト	10Y 4/4薄緑色シルト、無
	4.5	10Y R 1/2薄緑色	シルト	10Y 4/4薄緑色シルト
	5	10Y R 1/2薄緑色	粘土質シルト	10Y 4/4薄緑色、無化粧
S-K17	1.5	10Y R 1/2薄緑色	シルト	無
	2	10Y R 1/2薄緑色	シルト	10Y 4/4薄緑色シルト、小粒
	2.5	10Y R 1/2薄緑色	シルト	10Y 4/4薄緑色シルト、無
	3	10Y R 1/2薄緑色	シルト	10Y 4/4薄緑色シルト、無
	2.5	10Y R 1/2薄緑色	シルト	10Y 4/4薄緑色シルト、小粒
S-K18	2	10Y R 1/2薄緑色	シルト	10Y 4/4薄緑色シルト、小粒
	3	10Y R 1/2薄緑色	シルト	10Y 4/4薄緑色シルト、無
	3.5	10Y R 1/2薄緑色	シルト	10Y 4/4薄緑色シルト
	4	10Y R 1/2薄緑色	シルト	10Y 4/4薄緑色シルト、無
	5	10Y R 1/2薄緑色	シルト	10Y 4/4薄緑色シルト
S-K19	1.5	10Y R 1/2薄緑色	シルト	10Y 4/4薄緑色シルト、無化粧
	1	10Y R 1/4薄緑色	シルト	10Y 4/4薄緑色シルト、無化粧
	2	10Y R 1/4薄緑色	粘土質シルト	10Y 4/4薄緑色シルト、無化粧
	3	10Y R 1/4薄緑色	粘土質シルト	10Y 4/4薄緑色シルト、無化粧
	4	10Y R 1/4薄緑色	粘土質シルト	10Y 4/4薄緑色シルト、無化粧

第8図 土坑平・断面図



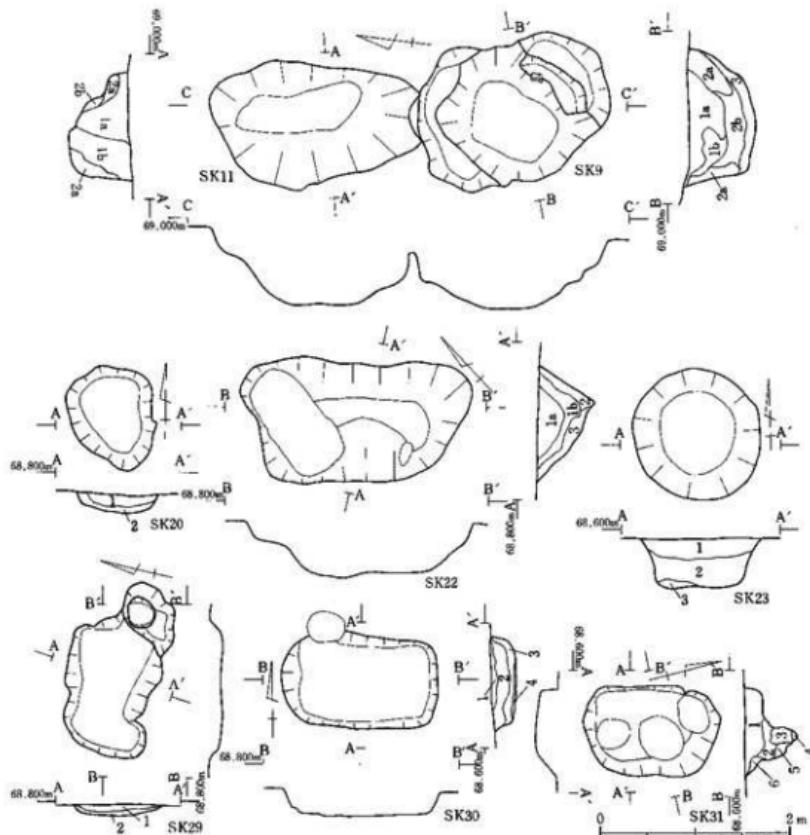
SK19	1 ■ 10Y R 4/4暗色系	シルク・黒艶糊	底、床面糊
	1 b 10Y R 4/4暗色系	シルク・黒艶糊	10Y R 4/4暗色系底シルクト、糊、床面糊
	2 ■ 10Y R 4/4暗色系	糊土質シルク	10Y R 4/4暗色系底・糊土質シルク、糊
	3 ■ A 10Y R 4/4暗色系	シルク・黒艶糊	10Y R 4/4暗色系シルク、糊等物
	3 b 10Y R 4/4暗色系	糊土質シルク	10Y R 4/4暗色系シルクト、糊等物、糊
	3 c 10Y R 4/4暗色系	糊土質シルク	10Y R 4/4暗色系シルクト、糊等物、糊
	4 ■ 10Y R 4/4暗色系	糊土質シルク	10Y R 4/4暗色系シルクト、糊等物、糊
	4 b 10Y R 4/4暗色系	糊土質シルク	10Y R 4/4暗色系糊土質シルク、糊化物
	5 ■ 10Y R 4/4暗色系	シルク・黒艶糊	10Y R 4/4暗色系シルクト、糊、糊化物、糊
	5 b 10Y R 4/4暗色系	糊土質シルク	10Y R 4/4暗色系糊土質シルク、糊化物、糊
SK25	1 ■ 10Y R 4/4暗色系	シルク・黒艶糊	10Y R 4/4暗色系シルクト、糊、糊化物、糊
	2 ■ 10Y R 4/4暗色系	糊土質シルク	10Y R 4/4暗色系糊土質シルク、糊化物、糊
	1 a 10Y R 4/4暗色系	シルクト	10Y R 4/4暗色系シルクト、糊、糊化物
	1 b 10Y R 4/4暗色系	シルクト	10Y R 4/4暗色系シルクト、糊等物、糊
	2 ■ B 10Y R 4/4暗色系	シルクト	10Y R 4/4暗色系シルクト、糊化物、糊
SK40	2 b 10Y R 4/4暗色系	糊土質シルク	10Y R 4/4暗色系シルクト、糊化物、糊等物、糊
	3 ■ A 10Y R 4/4暗色系	糊土質シルク	10Y R 4/4暗色系シルクト、糊等物、糊
	3 b 10Y R 4/4暗色系	糊土質シルク	10Y R 4/4暗色系シルクト、糊等物、糊
	4 ■ 10Y R 4/4暗色系	糊土質シルク	10Y R 4/4暗色系シルクト、糊化物、糊等物、糊
	5 ■ 10Y R 4/4暗色系	糊土質シルク	10Y R 4/4暗色系シルクト、糊等物、糊化物、糊

第9図 土坑平・断面図

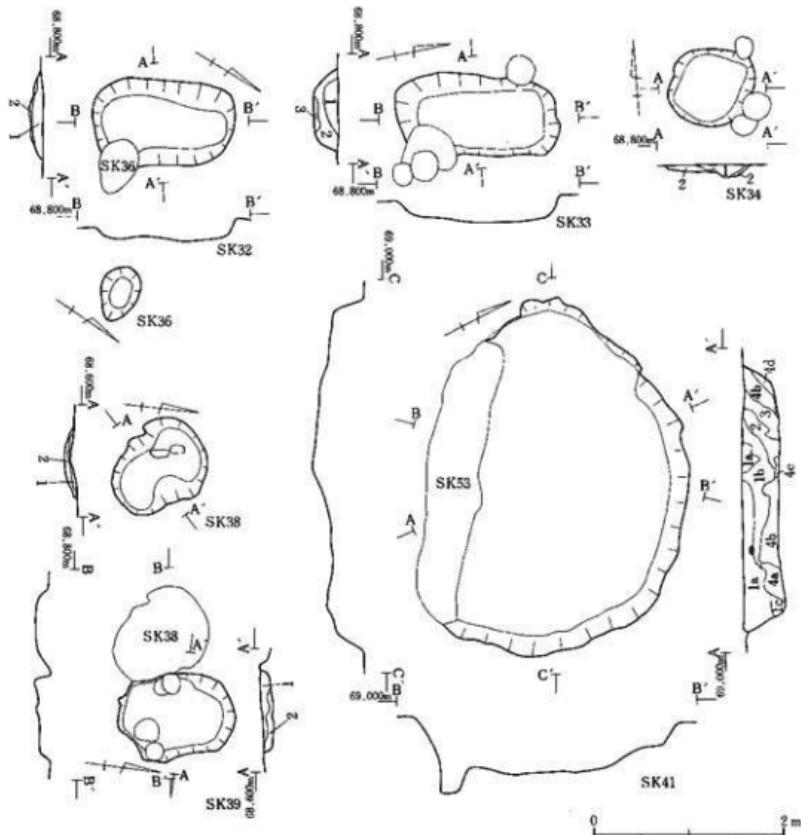


SK41	1	10Y R 3/4暗褐色	シルト	10Y R 2/4に10Y R 3/4暗褐色を含むシルト。小塊
	2	10Y R 2/4褐色	シルト	10Y R 3/4褐色のシルト。10Y R 2/4褐色を含むシルト。小塊
	3	10Y R 2/3褐色	シルト	10Y R 2/3褐色のシルト。小塊
SK53	1	10Y R 3/4暗褐色	シルト	10Y R 3/4暗褐色シルト。
	2	7.5Y R 2/3褐色	シルト	10Y R 2/3褐色シルト。10Y R 2/4に10Y R 3/4暗褐色シルト。
	3	7.5Y R 2/3褐色	粘土質シルト	10Y R 2/3褐色シルト。
SK52	1	10Y R 3/4暗褐色	シルト	10Y R 2/3褐色のシルト。10Y R 2/4暗褐色を含むシルト。
	2	10Y R 2/3褐色	シルト	10Y R 2/3褐色のシルト。
	3	10Y R 2/3褐色	シルト	10Y R 2/3褐色のシルト。
SK3	1	10Y R 2/3褐色	シルト	10Y R 2/3褐色のシルト。
	2	10Y R 2/3褐色	シルト	10Y R 2/3褐色のシルト。
	3	10Y R 2/3褐色	シルト	10Y R 2/3褐色のシルト。
SK8	1	10Y R 2/3褐色	シルト	10Y R 2/3褐色のシルト。
	2	10Y R 2/3褐色	シルト	10Y R 2/3褐色のシルト。
	3	10Y R 2/3褐色	シルト	10Y R 2/3褐色のシルト。
SK17	1	10Y R 2/3褐色	シルト	10Y R 2/3褐色のシルト。
	2	10Y R 2/3褐色	シルト	10Y R 2/3褐色のシルト。
	3	10Y R 2/3褐色	シルト	10Y R 2/3褐色のシルト。
SK17				
3.a 10Y R 3/4暗褐色、10Y R 4/6褐色粘土質シルトの混合				
3.b 10Y R 4/6褐色、10Y R 6/9暗褐色粘土質シルトの混合				

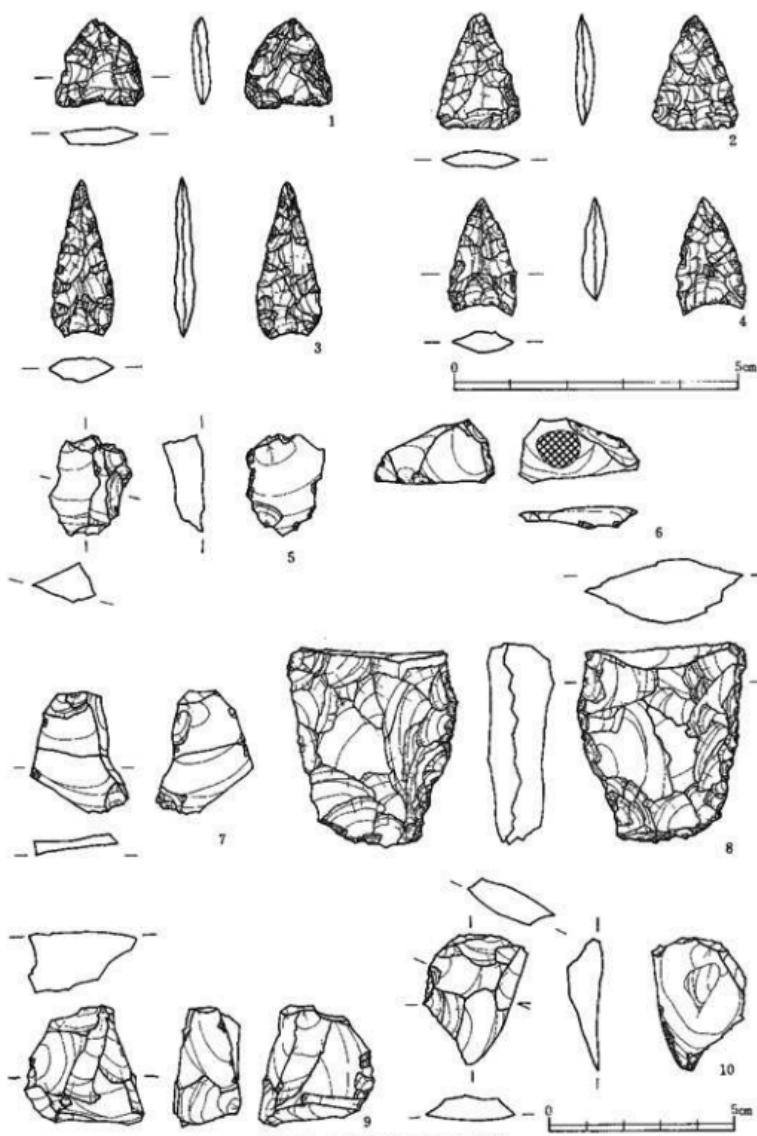
第10図 土坑平・断面図



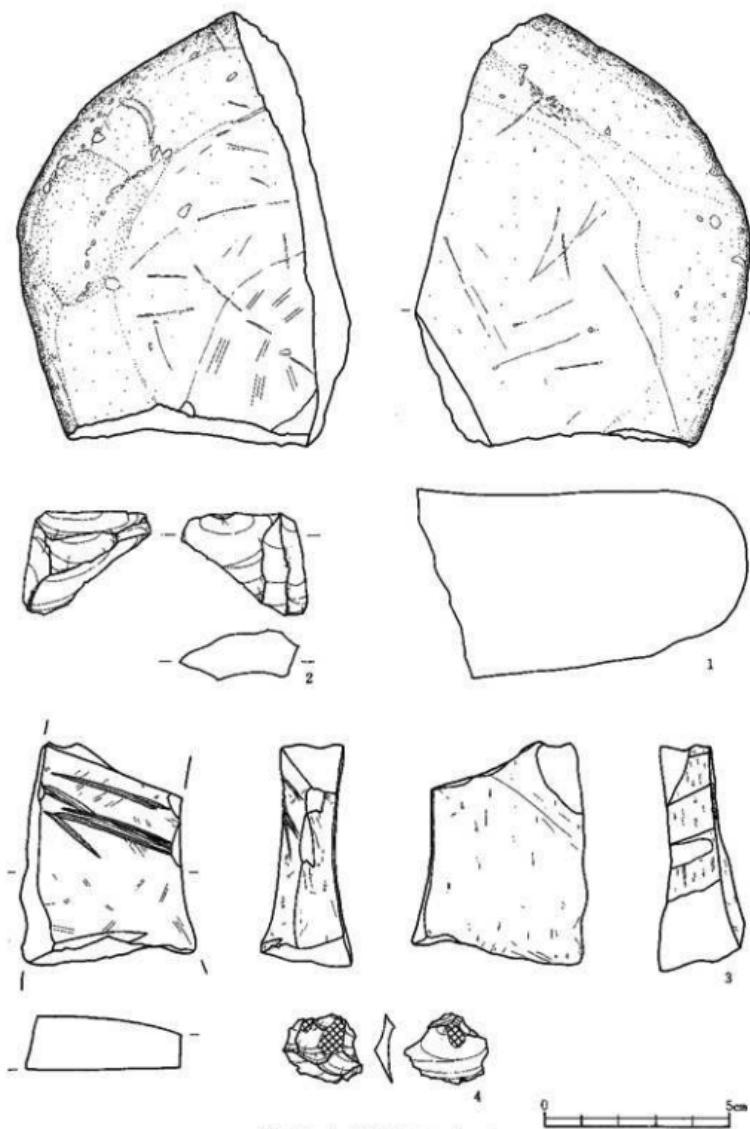
第11図 土坑平・断面図



第12図 土坑平・断面図



第13図 出土遺物実測図(石器)



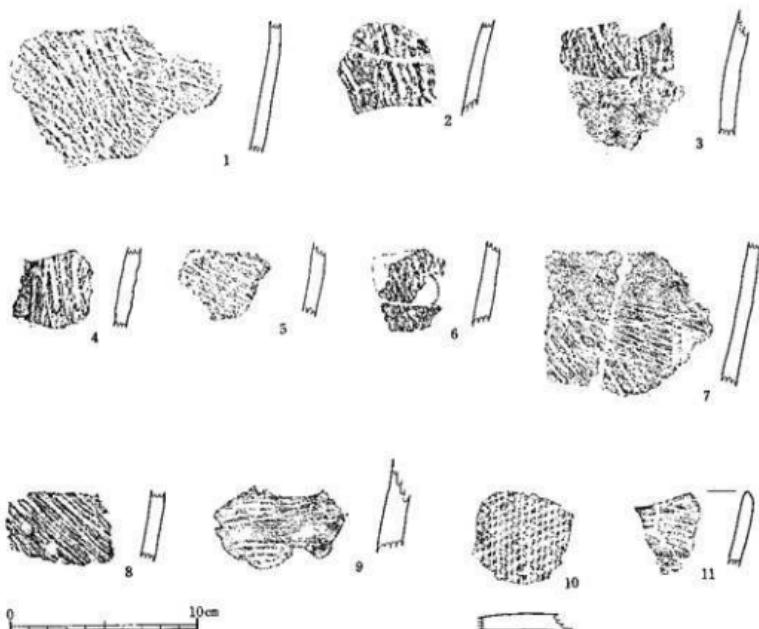
第14図 出土遺物実測図（石器）

石器属性表

No	図番号	遺構・層位	種別	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重 量 (g)	石 材	図版番号	備 考
K-2	13-5		二次加工の ある剝片	26.6	22.6	11.8	5.0	玉 髓		
K-3	13-1		石 核	15.4	15.2	3.3	1.0	真 岩		同 基
K-4	13-2		石 核	20.0	14.8	3.3	1.0	真 岩		平 基
K-5	13-7		スクレイバー	25.1	23.0	6.0	3.0	けい質 質 岩		
K-8	14-1	南区 SK-32		122.0	95.0	51.5	736.0	閃 綠 玢 岩		
K-9	13-4	SK-21	石 核		11.9	4.1	0.5	真 岩		同 基
K-10	13-3	SK-11	石 核	27.4	11.4	4.0	1.0	真 (赤鉄こう)		同 基
K-12	13-8	南区 Pit 180	スクレイバー	60.5	45.9	17.6	40.5	真 岩		
K-14	14-2	南区 Pit 123	石 核 ?	37.5	19.8	19.2	10.0	凝 灰 岩		
K-15	13-7	南区 Pit 81	二次加工の ある剝片				1.5	不 明		
K-17	13-7		*	33.6	22.6	6.0	1.5	不 明		
K-18	13-10	SK-7	二次加工の ある剝片	34.7	27.4	9.6	7.0	玉 髓		
K-21	13-9		石 核 ?	33.4	30.0	17.5	16.5	玉 髓		
K-37	13-6	南区 SK-33	石 核 ?	26.6	17.6	6.0	2.5	真 岩		腹面に焼けはじ り有り
K-43	14-4	SK-4	剝 片	18.0	21.7	3.1	1.0	真 岩		背・腹面の焼け はじり有り
K-58	14-3		砾 石	68.7	57.4	25.3	64.5	石英安山岩質 砾 石		

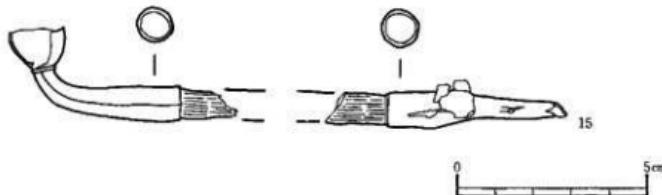
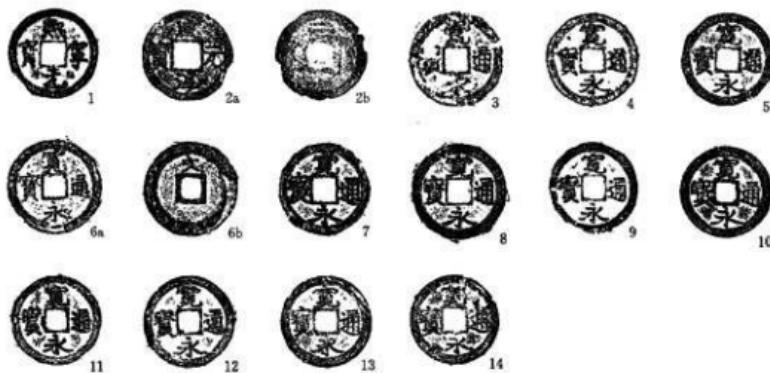
・剝片及び微細剥離痕については、
剝片剥離軸を基準に長と幅を計測。

・Tool Lについては最大長・最大幅
で計測。



器種	測量番号	種別	胎形	出土場所	層位	外観	内面	傷害	年表
1	A-3	縄文土器	P i t 456	埋土	L. 古鏡文	ミガキ			40-6
2	A-4	縄文土器	P i t 456	埋土	L. 古鏡文	ミガキ			40-3
3	A-5	縄文土器	P i t 456	埋土	L. 古鏡文	ミガキ			40-2
4	A-7	縄文土器	P i t 456	埋土	L. 古鏡文	ミガキ			40-5
5	A-8	縄文土器	P i t 456	埋土	L. 古鏡文	ミガキ			40-4
6	A-9	縄文土器	P i t 456	埋土	L. 古鏡文	ミガキ			40-1
7	A-10	縄文土器			鏡面	背鏡面-L. 古鏡文	ミガキ		40-14
8	A-11	縄文土器			模出窓	自然	ミガキ		40-13
9	A-12	縄文土器	SK-5	埋土	鏡面		小明		40-12
10	A-13	縄文土器		陶器	模出窓	不明		鏡面のみ	40-11
11	A-14	縄文土器	SK-2	埋土	自然		ミガキ		40-10

第15図 縄文土器拓影



番号	登録番号	表名	出土場所	位置	宝物年 (西暦)	時代	測量 (cm)			材質	参考	平均幅厚
							直徑	中央穴の径	邊幅			
1	N-3	寛永通宝	pt437	埋土	1668年 (江戸)	江戸	2.4	0.35	0.2		40-31	
2	N-4	寛永通宝	SK47	埋土	1665年 (慶和)	江戸	2.45	0.6	0.25	- (7)	40-30	
3	N-1-1	寛永通宝	SK17	埋土	1666年～1668年	江戸	2.5	0.35	0.25	内黄水	40-18	
4	N-1-2	寛永通宝	SK17	埋土	1669年～1670年	江戸	2.45	0.35	0.25	内黄水	40-19	
5	N-1-3	寛永通宝	SK17	埋土	1670年	江戸	2.45	0.5	0.25	内黄水	40-20	
6	N-1-4	寛永通宝	SK17	埋土	正保1年 (1664年)	江戸	2.5	0.55	0.25	文 新見友	40-21	
7	N-1-5	寛永通宝	SK17	埋土	新見村 (1666年)	江戸	2.45	0.6	0.25	内黄水	40-22	
8	N-1-6	寛永通宝	SK17	埋土	新見村 (1666年)	江戸	2.5	0.6	0.3	内黄水	40-22	
9	N-2-1	寛永通宝	SK8	埋土	寛永14年 (1677年)	江戸	2.4	0.55	0.25	内黄水	40-24	
10	N-2-2	寛永通宝	SK8	埋土	寛永14年 (1677年)	江戸	2.45	0.5	0.27	内黄水	40-25	
11	N-2-3	寛永通宝	SK8	埋土	寛永14年 (1677年)	江戸	2.4	0.5	0.25	内黄水	40-25	
12	N-2-4	寛永通宝	SK8	埋土	寛永14年 (1677年)	江戸	2.45	0.55	0.25	内黄水	40-27	
13	N-2-5	寛永通宝	SK8	埋土	寛永14年 (1677年)	江戸	2.45	0.5	0.3	内黄水	40-28	
14	N-2-6	寛永通宝	SK8	埋土	1668年～1669年	江戸	2.4	0.5	0.25	内黄水	40-29	
番号	登録番号	表名	出土場所	埋土	概要	直径	中央穴の径	邊幅	材質	参考	平均幅厚	
15	N-6	千せん	SK17	埋土	及手ノ塙	4.5~4.9		4.9~5.0	鉄		40-17	

第16図 金属製品拓影・実測図

16図15) が出土している。

5. その他の遺構

SX26 性格不明焼土遺構 長軸 50 cm、短軸 28 cm の不整形で全体に焼土が広がっている。内外面ロクロナデ調整の土師器 D-5 壺が出土している。

その他、ピット・小柱穴が489検出され、65のピット・小柱穴から縄文土器片、土師器片、須恵器片、陶磁器片、焼けた石、炭化物が出土している。その内 No. 400 の底面より土師器 D-4 壺が、No. 456 より縄文土器 A-1~9 が出土している。

基本層位のII層中からは縄文土器片、土師器 D-3 壺(第17図1)を含む土師器片、須恵器壺片、陶器片が出土している。遺構検出面からは調査区北区では土師器 D-2 壺(第17図2)と土師器壺片、調査区南区からは縄文土器片、土師器片、南拡張区からは縄文土器片、土師器片、が出土している。土師器 D-2・D-3 壺は外面ロクロナデ調整、内面ヘラミガキ調整で黒色処理が施されている。

擾乱、表土から縄文土器片、土師器壺片、須恵器片、陶磁器片、瓦片が出土している。



出土土器観測表

番号	登錄番号	種別	断面	凸凹度	層位	外 面			内 面	備 考	寸高測取
						口端部	体 端	底 部			
1	D-3	土師壺 (Utsu)	坪	凸	日野	ロクロナデ	ロクロナデ	圓底余若リ	ヘラミガキ・黒色光澤		40-16
2	D-2	土師壺 (Utsu)	坪	底凹面	ロクロナデ	ロクロナデ	圓底余若リ	ヘラミガキ・黒色光澤			40-15

第17図 出土遺物実測図 (土師器)

VII まとめ

1. 掘立柱建物跡・塙跡

掘立柱穴は小ピットも含めると全体で489検出されたが、西区には殆どみられず、大半は北南区にあるが、特に南区の調査区南東隅寄りの一画に集中して検出された。柱穴は直径15~40cmの円形で、特に25~30cmが特に多く、柱痕跡は全てに認められなかつたが、検出し得るものは直径10~15cm程度で小形の掘立柱である。これらの柱穴は一部重複するものもあるが、柱穴埋土等も殆ど差異が認められず、また、建物の規模も小さく柱間寸法も不揃いであることなどから全ての建物の認定及び変遷を把握することができなかつた。ここでは柱穴規模・埋土・柱列方向等の検討により30棟の建物跡が認定された。これらの建物は方向により次の6群に大別することができる。

[第1群] 7棟 N-3~8°-E

SB54	3間 (13.7m) × 2間 (4.4m)	3°	SB57	4間 (6.8m) × 2間 (3.9m)	6°
SB64	3 (7.3m) × 1 (3.6m)	8°	SB65	3 (6.5m) × 2 (2.8m)	4°
SB66	2 (3.9m) × 1 (2.6m)	6°	SB73	3 (6.1m) × 2 (5.0m)	6°
SB83	2 (6.6m) × 1 (2.8m)	6°			

[第2群] 4棟 N-10~13°-E

SB56	1間 (4.0m) × 1間 (2.0m)	10°	SB68	1間 (2.6m) × 1間 (2.1m)	12°
SB69	1 (2.8m) × 1 (2.1m)	13°	SB72	3 (5.5m) × 2 (3.7m)	13°

[第3群] 6棟 N-19~22°-E

SB55	2間 (6.0m) × 1間 (3.2m)	19°	SB60	2間 (4.3m) × 1間 (2.4m)	19°
SB75	3 (6.6m) × 1 (4.0m)	19°	SB76	3 (6.3m) × 1 (3.8m)	22°
SB78	1 (4.3m) × 1 (2.6m)	19°	SB79	1 (4.2m) × 2 (4.0m)	19°

[第4群] 6棟 N-26~32°-E

SB61	2間 (5.3m) × 2間 (3.7m)	26°	SB63	2間 (3.6m) × 1間 (2.3m)	32°
SB67	3 (6.5m) × 2 (3.2m)	29°	SB80	2 (4.8m) × 1 (2.2m)	30°
SB81	3 (5.8m) × 2 (2.2m)	30°	SB82	1 (4.2m) × 1 (2.8m)	30°

[第5群] 4棟 N-9~10°-W

SB58	2間 (4.0m) × 1間 (2.7m)	10°	SB62	2間 (5.2m) × 1間 (2.5m)	10°
SB70	3 (5.1m) × 1 (3.2m)	9°	SB77	1 (4.8m) × 2 (4.5m)	9°

[第6群] 3棟 N-45°~-E

SB59	2間 (4.0m) × 2間 (4.0m)	62°	SB71	2間 (4.4m) × 1間 (3.2m)	45°
SB74	3 (5.2m) × 1 (4.2m)	60°			

これらの建物の方向性により群として大別したが同群の建物が同一時期に建てられていたものと断定し得ない。しかし、少なくとも6期にわたる建て替え変遷があったものとみられよう。さらに同一群内でも重複関係が認められることから、同群内の建物が全て同一時期に並存し得ず、さらに多くの時期変遷も推定されよう。いずれにしろ、かなり長期間にわたって、小規模な建物が繰り返して建てられていたものと考えられる。

一棟ごとの建物規模をみれば、柱間は桁で1~4間、純長もSB54の13.7mを除けば、3~7m、梁で1~2間、純長も2~4.5mといずれも短く、小規模なものが殆どである。しかし、限られた範囲に柱穴が集中し、重複が著しいことから、今回は方形規模の建物しか復元し得なかつたが、間仕切りや張出し等の複雑な配置構造をもつ建物もあったものと考えられる。

各建物群の年代は出土遺物等がないことから断定し得ないが、柱穴規模や不揃いな柱間寸法からみて、中世以前に遡ることはないと考えられ、また調査区内で近世の墓壙が数基発見されており、本調査区内で、中世の遺構・遺物が皆無であることから、近世の建物群と見ておきたい。

2. 土 坑

今回の調査では48基の土坑が検出されている。しかし、これらの土坑は後世において削平をうけているので検出面での上端の平面形の深さからだけではその性格などを判断することは難しい。また、時期を推定するような出土遺物もなかった。ここでは、下端の平面形や底部に見られるピットなどのデータにより次のような考察を行った。

土坑の下端長幅をみれば、短軸に対して長軸が非常に長い群とそうでない群との2つのまとまりがみられる。(第19図①)。次に後者の群に対して、検出面からの深さをみると30cmを境とする2つのまとまりがみられる。(第19図②)。これらのことから、次の3つの分類を考えられる。

I群=長幅の比が大きく開くもの

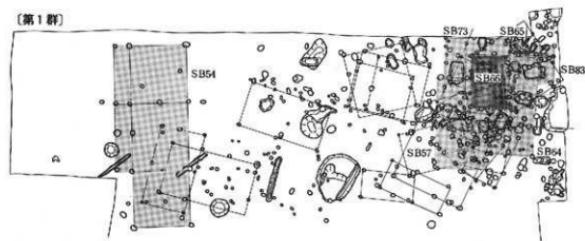
II群=長幅の比があまり開かず、深さが30cm以上のもの

III群=長幅の比があまり開かず、深さが30cm以下のもの

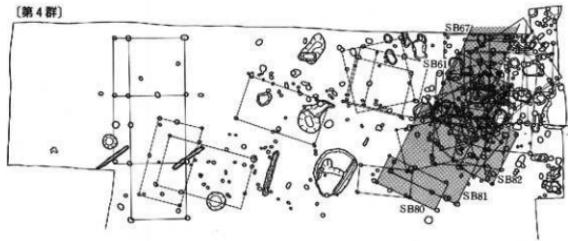
I群とII群には、底面に1~2個のピットを持つものがみられる。III群にはピット等の底面施設をもつものはみられない。また、III群に分類される土坑は南区に集中する傾向がみられ、深さも浅く形も不整形なものが多いことからI・II群とは分けて考えることができる。

このI・II群に分類される土坑は、従来「陥し穴状遺構」、「落し穴」と呼ばれてきた土坑と形態・底面施設等類似する点が多い。I群に分類される土坑は、平面形が溝状を呈する土坑で、断面形は壁がほぼ垂直に立ち上がる。この形態を呈する土坑は、北海道・青森・岩手などでま

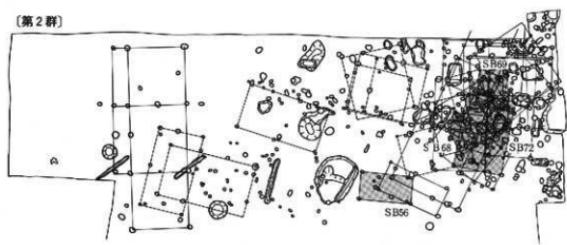
(第1群)



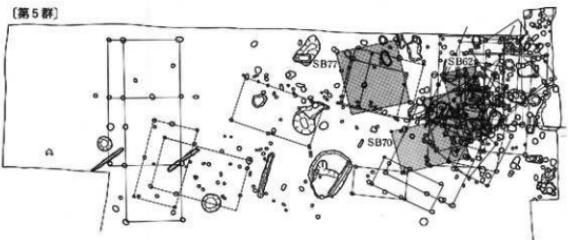
(第4群)



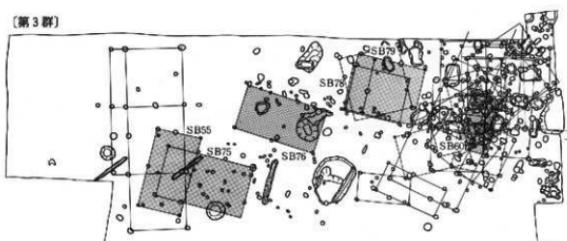
〔第2群〕



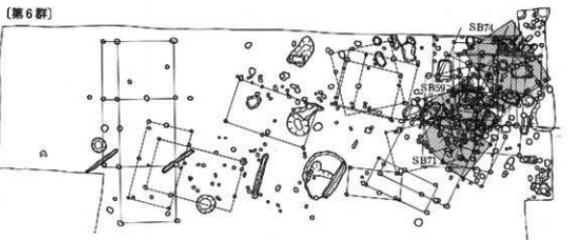
〔第5群〕



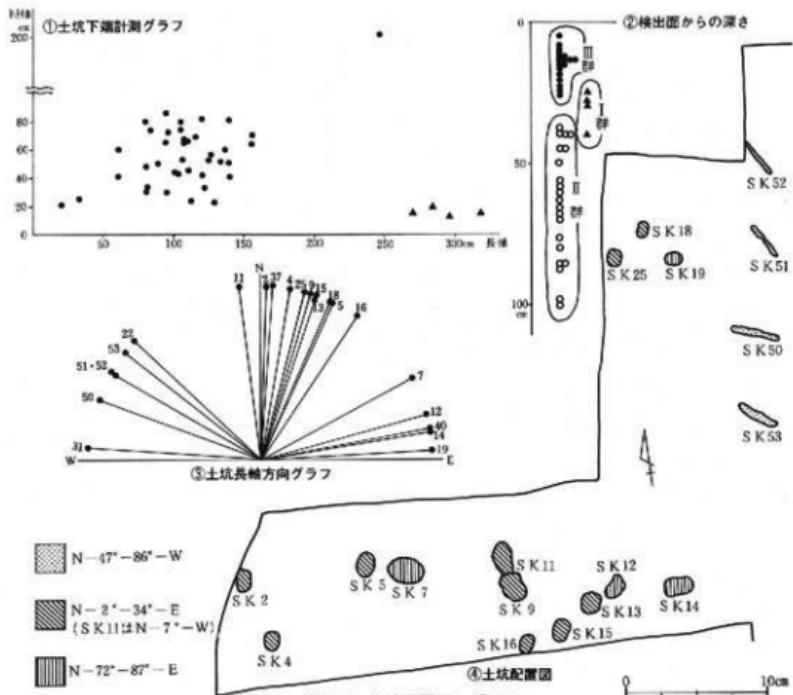
(第3群)



(第6群)



第18図 据立柱建物跡分類図



第19図 土坑配置図・グラフ

土坑番号	下端(cm) 長軸 短軸	深さ(cm) 長軸 短軸	平面形	ピット数	長軸の傾き	分類番号	土坑番号	下端(cm) 長軸 短軸	深さ(cm) 長軸 短軸	平面形	ピット数	長軸の傾き	分類番号
SK 1	20	20	13 円形	3	N - 2° - E	2群	SK29	124	51	11 不整形	3		3群
SK 2	138	50	66 脊丸長方形	1	N - 2° - E	2群	SK30	138	80	26 脊丸長方形	3		3群
SK 4	115	68	76 條円形	1	N - 10° - E	2群	SK31	104	74	56 條円形	N - 86° - W	2群	
SK 5	110	45	88 脊丸長方形	1	N - 25° - E	2群	SK32	132	52	14 條円形	3		3群
SK 6	112	23	38 楕円形	3			SK33	136	60	25 脊丸長方形	3		3群
SK 7	154	70	100 脊丸長方形	2	N - 22° - E	2群	SK34	60	60	14 円形	3		3群
SK 9	94	66	78 楕円形	1	N - 17° - E	2群	SK35	110	66	16 不整形	3		3群
SK10							SK36	33	22	12 楕円形	3		3群
SK11	140	40	63 條円形	1	N - 7° - W	2群	SK37	120	82	40 不整形	N - 4° - E	2群	
SK12	80	46	76 條円形	1	N - 25° - E	2群	SK38	94	30	9 不整形	3		3群
SK13	81	34	98 楕円形	1	N - 15° - E	2群	SK39	106	58	14 楕円形	3		3群
SK14	120	43	86 脊丸長方形	1	N - 81° - E	2群	SK40	88	50	87 脊丸長方形	N - 80° - E	2群	
SK15	126	57	86 不整形	1	N - 19° - E	2群	SK41	245	282	40 楕円形	2		3群
SK16	102	43	80 楕円形	1	N - 34° - E	2群	SK42	154	64	10 不整形	3		3群
SK18	106	32	38 脊丸長方形	1	N - 24° - E	2群	SK43						
SK19	96	51	60 脊丸長方形	1	N - 87° - E	2群	SK44						
SK20	82	54	19 楕円形	3			SK45						
SK21							SK46	121	34	17 脊丸長方形	3		3群
SK22	128	22	59 小円形	1	N - 47° - E	2群	SK47	60	49	21 不整形	3		3群
SK23	80	80	50 円形	2			SK49	80	30	14 脊丸長方形	3		3群
SK24	94	86	16 万形	3			SK50	318	16	40 云状円形	N - 79° - W	1群	
SK25	108	66	45 脊丸長方形	1	N - 12° - E	2群	SK51	270	16	30 長梢円形	N - 69° - W	1群	
SK27	100	44	5 楕円形	3			SK52	296	13	25 長梢円形	1		3群
SK28							SK53	284	20	29 長梢円形	N - 52° - W	1群	

第1表 土坑分類表

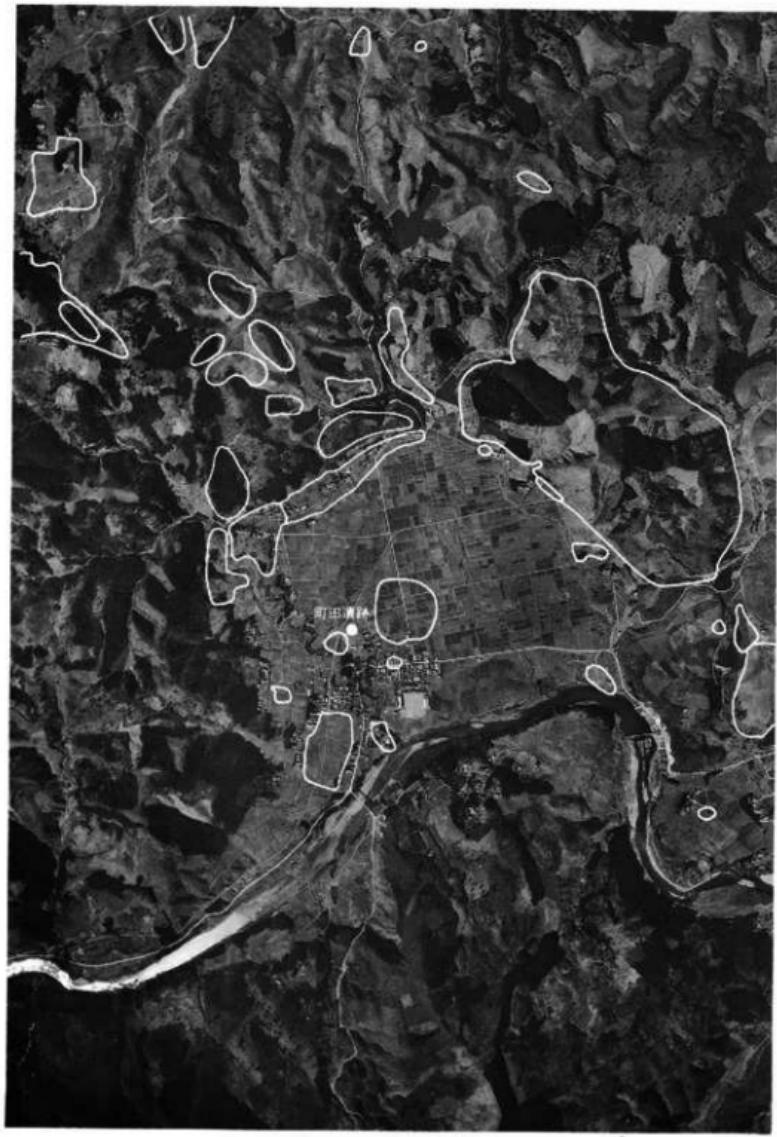
とまったく別の検出例が報告されている。仙台市でも、茂庭けんとう城・上ノ原山遺跡で検出例が報告されている。II群に分類される土坑は平面形が隅丸長方形、横円形を呈する土坑で、断面形は逆台形を呈するものが多く各地で検出例が報告されている。仙台市では前出の2遺跡の他、山田上ノ台遺跡・沼原A遺跡・嶺山A・B遺跡・下ノ内浦遺跡で検出例が報告されている。次にI・II群の土坑の長軸の報告をみると3つのまとまりがみられる(第19図③)。この配置関係をみると、一定の間隔で並んでいると考えられるものがある。旧地形がどのようにあったかは不明であるが南西80mのところに岩の川があり、それに向かうけもの道や等高線の傾きを意識した配列がなされていた可能性が考えられる(第19図④)。また、I・II群の土坑のなかには、底面にピットを1~2基有しているのがあり、その深さも40cm前後で杭などを打ち込んだか、あるいは埋め込んで底部施設としていたと考えることが可能である。

これらのことまとめると、I・II群に分類できる土坑は堆積状況がいずれも自然堆積を示すこと、底面に何らかの施設を伴ったと考えられるものがあること、意図的に配列された可能性が考えられことなどの点から、今回検出された土坑のうちI・II群に分類される土坑は、從来言われて来た「落し穴」と同様の遺構であるとみておきたい。(SK41は堆積状況などから倒木痕と考えられるので除いてある)

参考文献

- 1973 「幾ヶ丘」霧ヶ丘遺跡調査団
1977 「札幌市文化財調査報告書 XIV-S267、268遺跡」札幌市教育委員会
1981 「発糞沢遺跡」青森県教育委員会
1981 「岩手県埋蔵文化センター紀要 I」(財)岩手県埋蔵文化財センター
1981~85 「多摩ニュータウン遺跡」第1~7分冊(財)東京都埋蔵文化財センター
1981 「山田上ノ台遺跡」仙台市教育委員会
1982 「札幌市文化財調査報告書 XIII」札幌市教育委員会
1982 「東北新幹線開通遺跡発掘調査報告書 V 鳴神・柿内戸遺跡」福島県教育委員会
1982 「神谷原II」八王子門田遺跡調査会
1983 「茂庭」仙台市教育委員会
1983 「季刊考古学」創刊号 雄山閣
1983 「縄文文化の研究」雄山閣
1985 「仙台市高速鉄道関係遺跡調査概報IV」仙台市教育委員会
1987 「田面木平遺跡(I)」八戸市教育委員会
1987 「七ヶ宿ダム開通遺跡発掘調査報告書III 小梁川遺跡」宮城県教育委員会
1988 「東北横断自動車道遺跡調査報告3 登戸遺跡」福島県教育委員会
1988 「日本の考古学」雄山閣
1988 「論争・学説日本の考古学第2巻先土器・縄文時代I」雄山閣
1989 「茂庭けんとう城」仙台市教育委員会
1990 「下ノ内浦遺跡」仙台市教育委員会

写 真 図 版



図版1 町田造跡航空写真 (昭和31年撮影)



図版2
遺跡遠景（太白山より）



図版3
調査区全景（南東より）

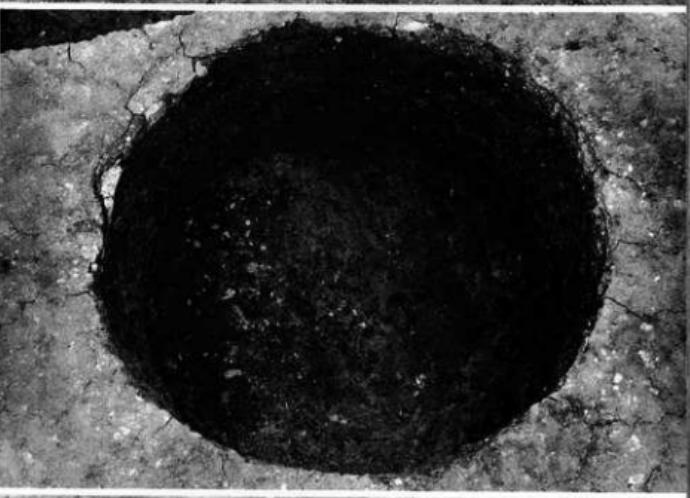


図版4
S 148号穴建物跡
土層断面（西より）

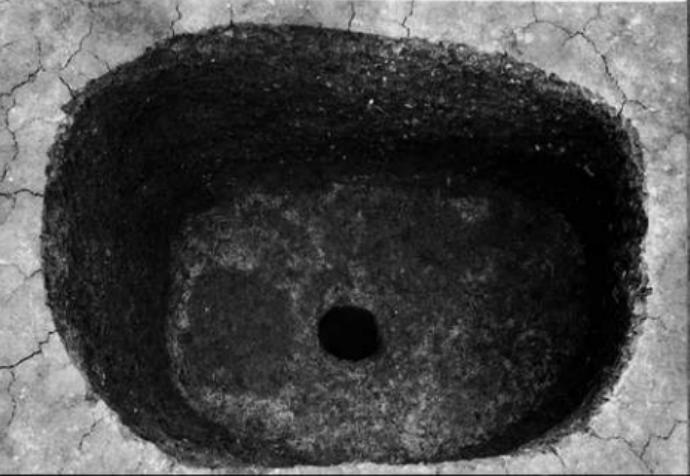
図版5
S I 48壁穴建物跡全景
(南より)



図版6
SK 3墓塚 (南より)

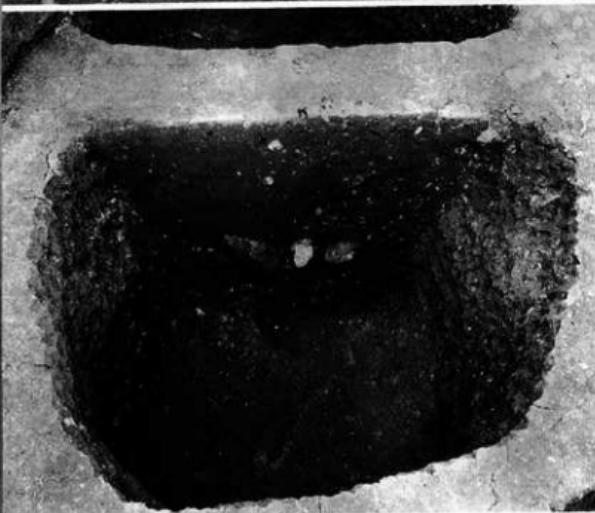


図版7
SK 4土坑 (東より)





図版 8
SK 2 土坑 (南より)

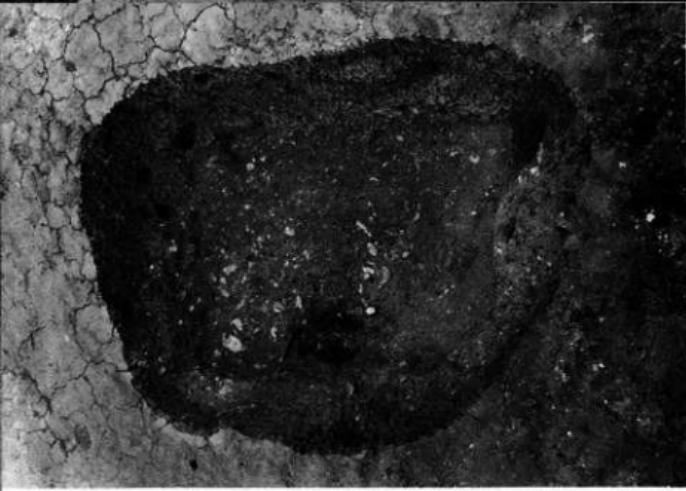


図版 9
SK 2 土坑土層断面
(南より)

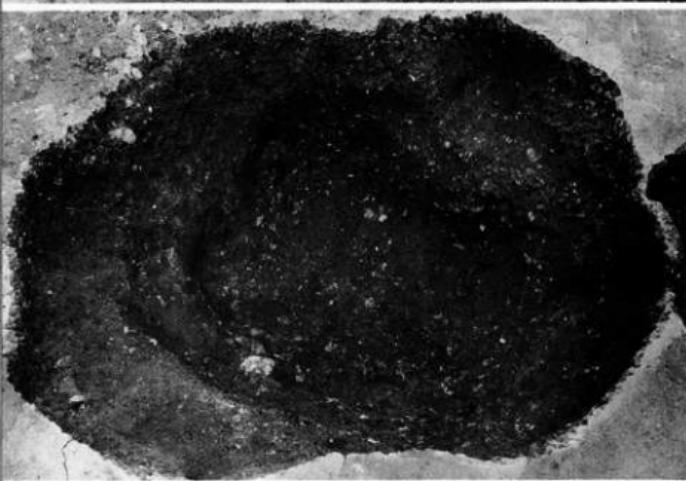
図版10
SK5土坑（南より）



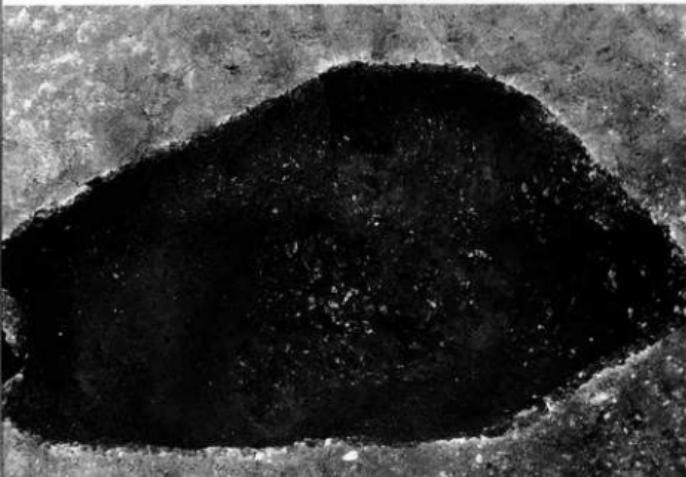
図版11
SK7土坑（南より）



図版12
SK8基壙（東より）



図版13
SK9土坑（東より）

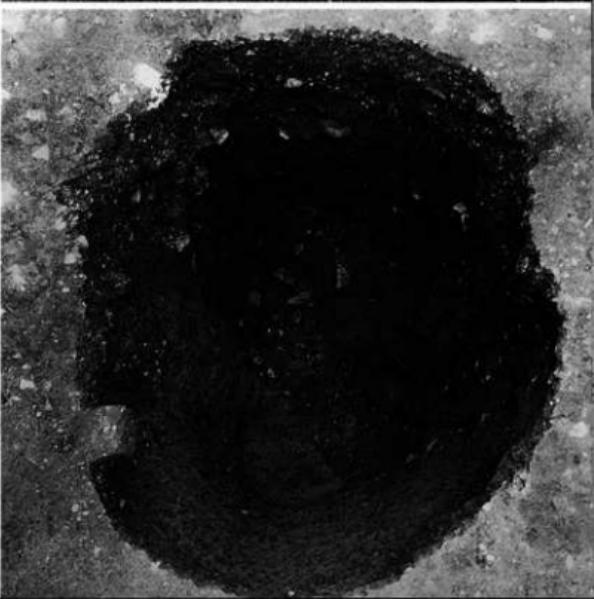


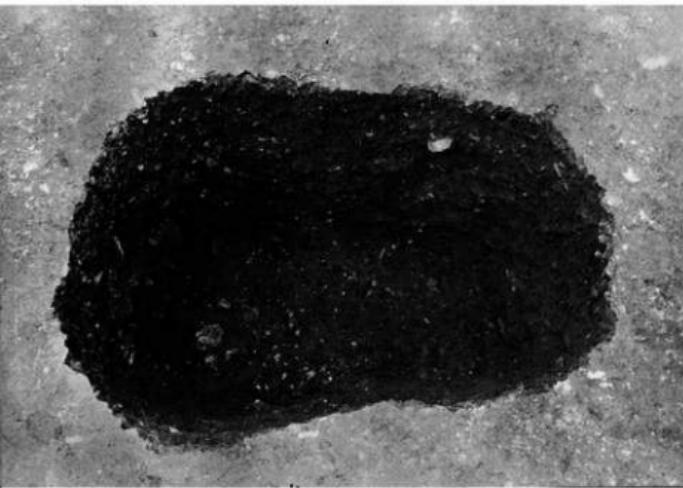
図版14
SK11土坑（東より）

図版15
SK12土坑
(北東より)

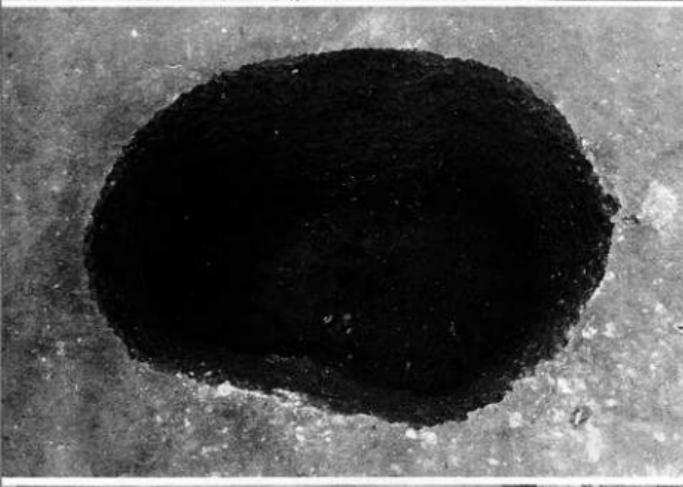


図版16
SK13土坑
(北より)





図版17
SK 14土坑
(南より)



図版18
SK 15土坑
(東より)

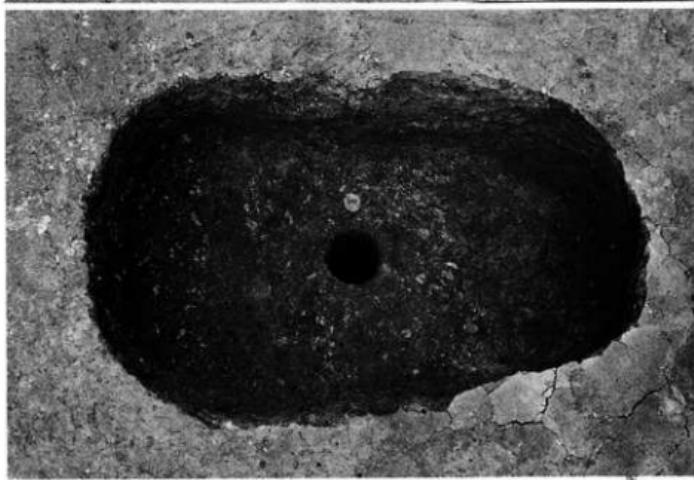


図版19
SK 16土坑
(西より)

図版20
S K17墓坑
(南より)

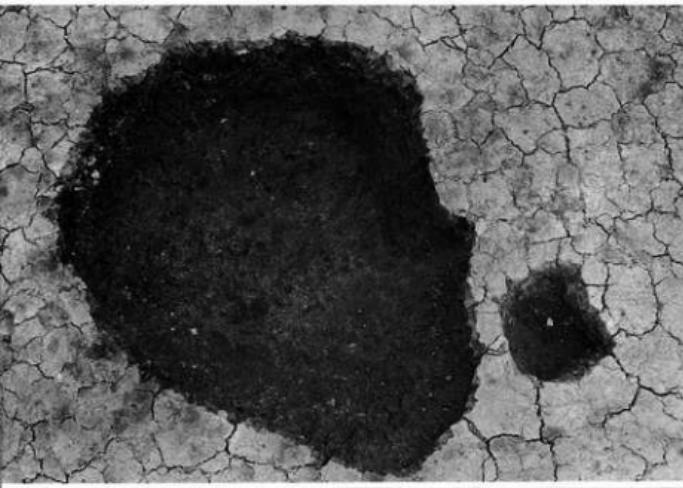


図版21
S K18土坑
(東より)

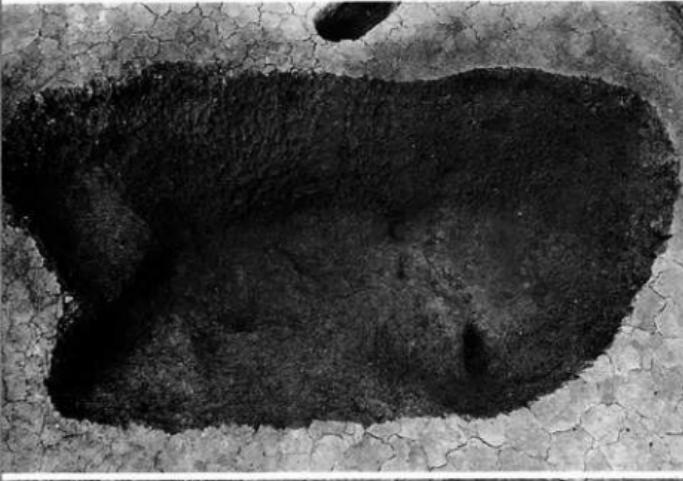


図版22
S K19土坑
(北より)





図版23
SK 20土坑
(南より)

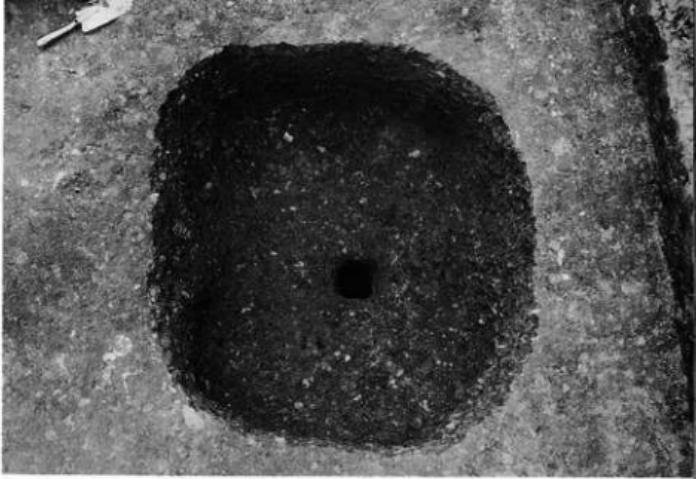


図版24
SK 22土坑
(南西より)

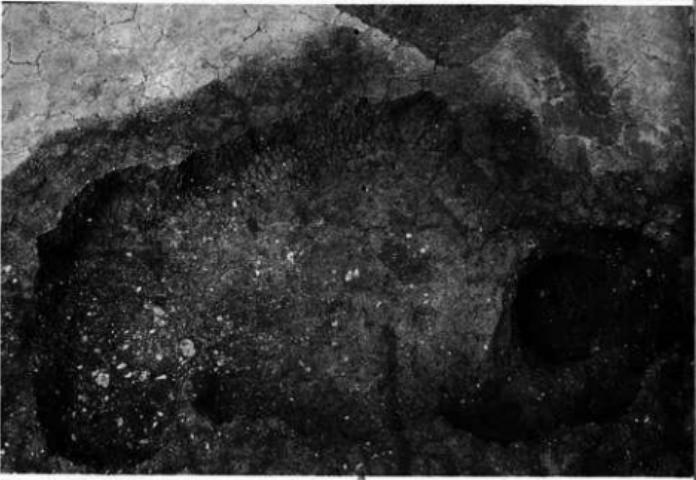


図版25
SK 23土坑
(東より)

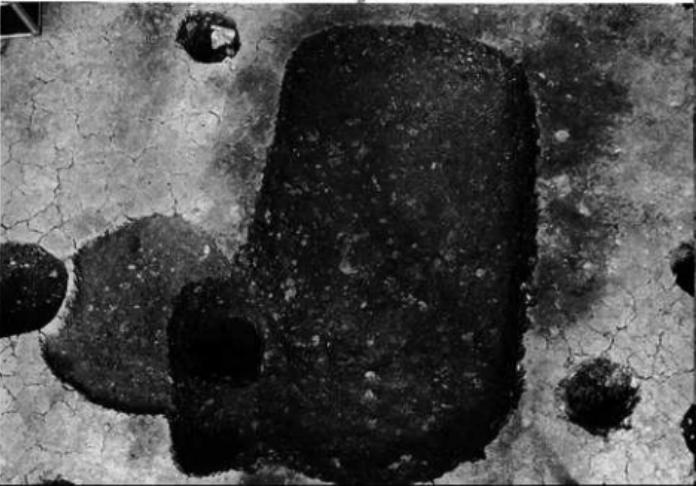
図版26
S K 25土坑
(北より)



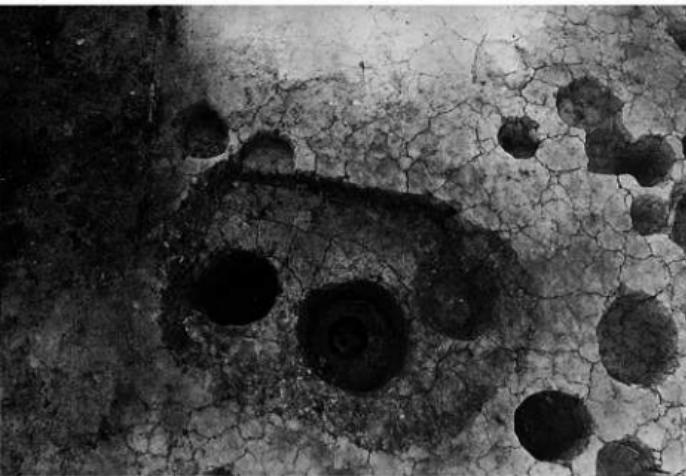
図版27
S K 29土坑
(南より)



図版28
S K 30土坑
(西より)



図版29
SK31土坑
(東より)



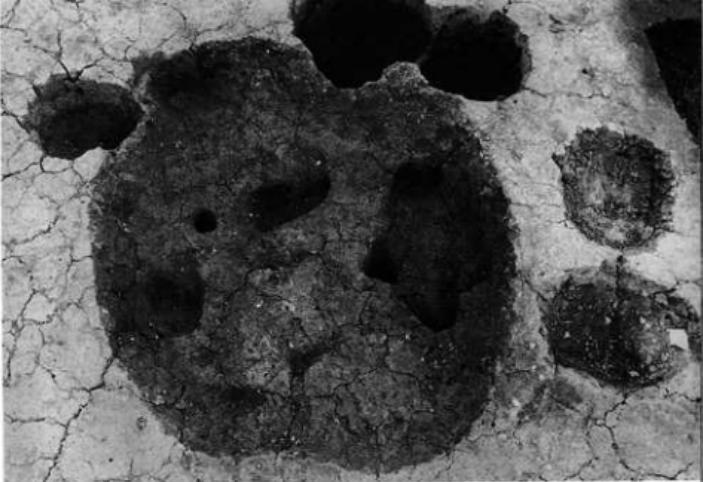
図版30
SK32土坑
(西より)



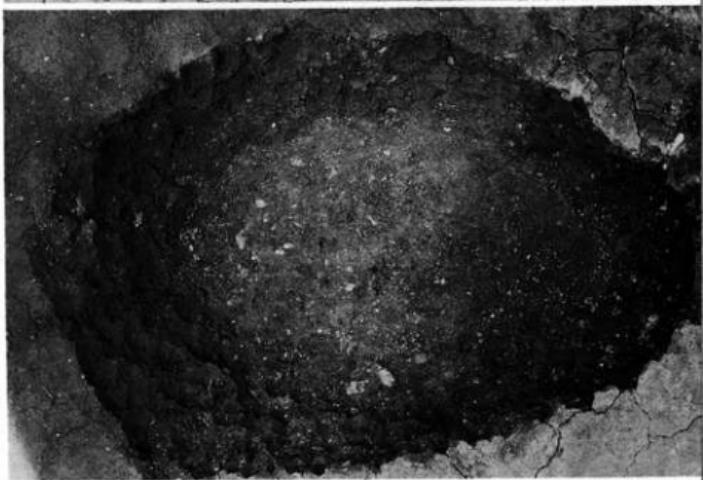
図版31
SK33土坑
(西より)



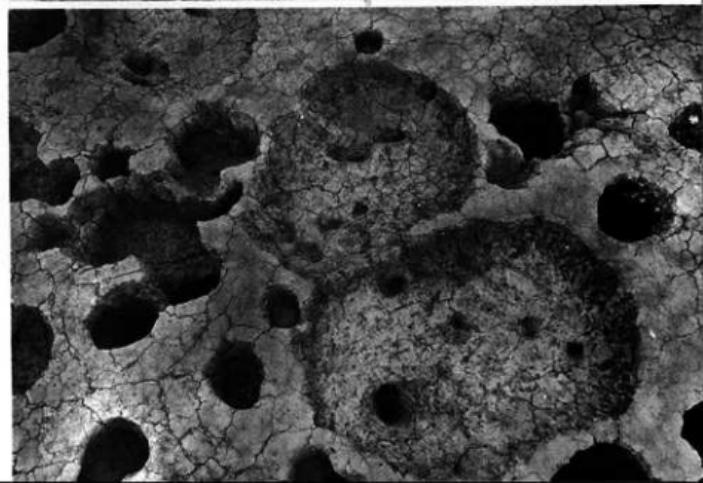
図版32
S K 34土坑
(西より)



図版33
S K 36土坑
(南より)



図版34
S K 38・39土坑
(東より)





図版35
SK 50土坑（東より）

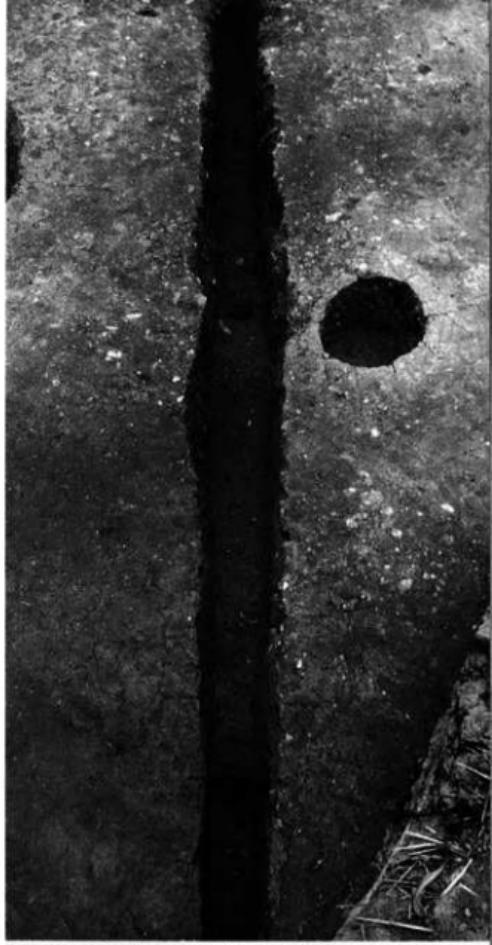


図版36
SK 51土坑（東より）

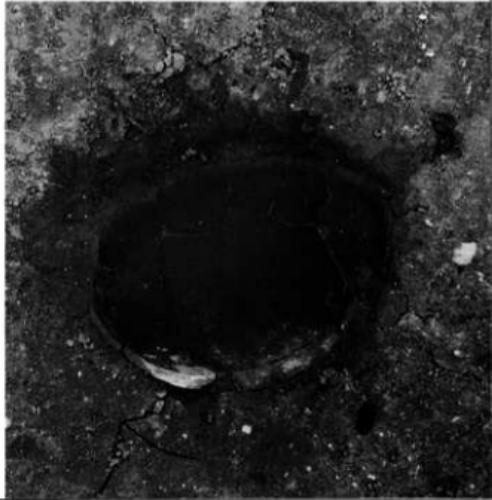


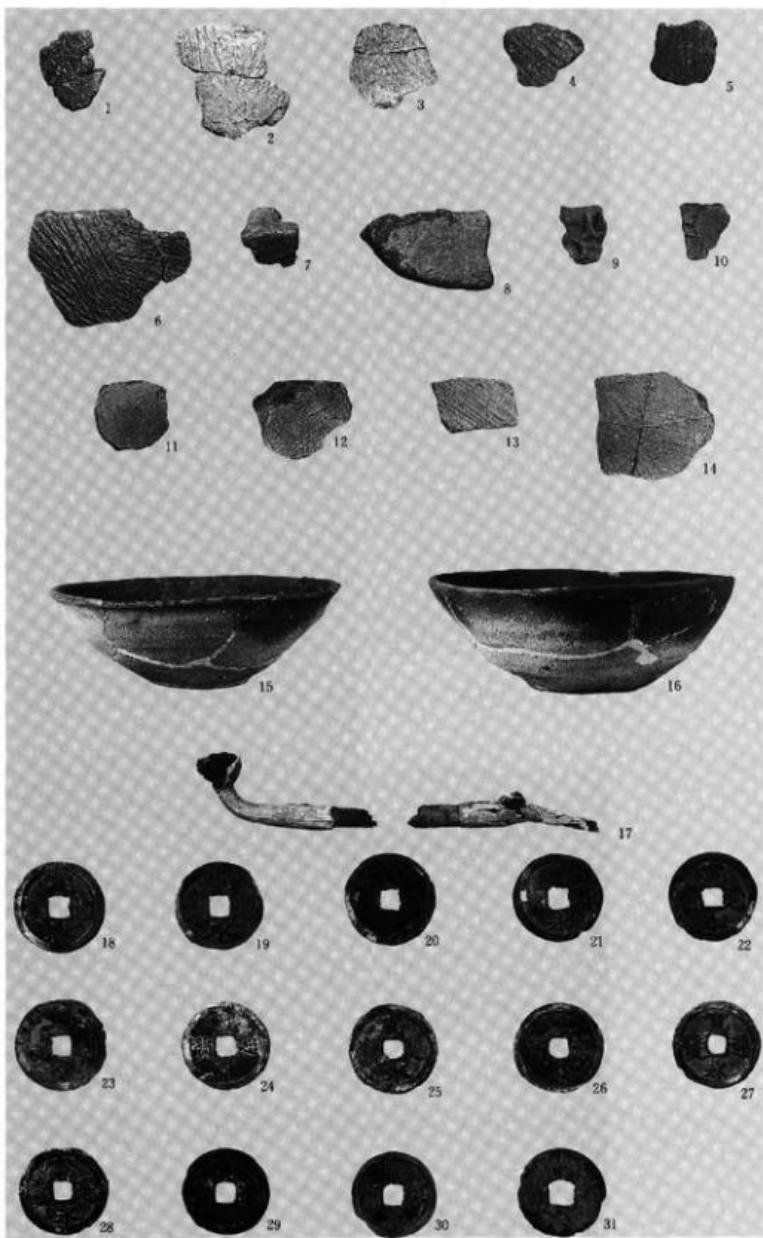
図版37 SK 41・53土坑
(西より)

図版38
S K52土坑（西より）



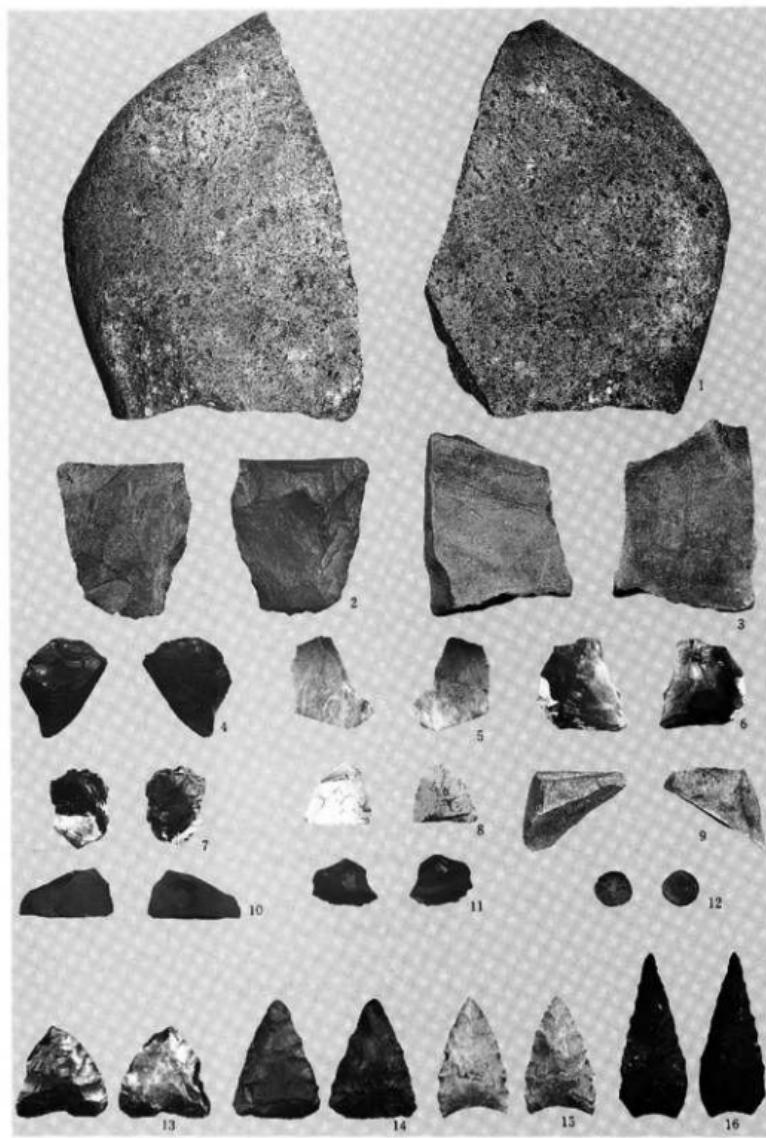
図版39
2層土師器出土状況
(南より)





圖版40 出土遺物

- | | | | | | | | |
|----------|---------|----------|---------|----------|---------|----------|---------|
| 1. 繩文土器 | A - 9 | 2. 繩文土器 | A - 5 | 3. 繩文土器 | A - 4 | 4. 繩文土器 | A - 8 |
| 5. 繩文土器 | A - 7 | 6. 繩文土器 | A - 3 | 7. 繩文土器 | A - 2 | 8. 繩文土器 | A - 1 |
| 9. 繩文土器 | A - 15 | 10. 繩文土器 | A - 14 | 11. 繩文土器 | A - 13 | 12. 繩文土器 | A - 12 |
| 13. 繩文土器 | A - 11 | 14. 繩文土器 | A - 10 | 15. 上師器 | D - 2 | 16. 土師器 | D - 3 |
| 17. キセル | N - 6 | 18. 寛永通宝 | N - 1-1 | 19. 寛永通宝 | N - 1-2 | 20. 寛永通宝 | N - 1-3 |
| 21. 寛永通宝 | N - 1-4 | 22. 寛永通宝 | N - 1-5 | 23. 寛永通宝 | N - 1-6 | 24. 寛永通宝 | N - 2-1 |
| 25. 寛永通宝 | N - 2-2 | 26. 寛永通宝 | N - 2-3 | 27. 寛永通宝 | N - 2-4 | 28. 寛永通宝 | N - 2-5 |
| 29. 寛永通宝 | N - 2-6 | 30. 成澤元寶 | N - 4 | 31. 熊草元寶 | N - 3 | | |



圖版41 出土遺物

- | | | | |
|------------|-------------|-------------|---------------|
| 1. 圆石 K-8 | 2. K-12 | 3. 破石 K-58 | 4. 石片 K-18 |
| 5. 石片 K-15 | 6. 石片 K-21 | 7. 石片 K-2 | 8. スクレーパー K-5 |
| 9. 石片 K-14 | 10. 石核 K-37 | 11. 石片 K-43 | 12. 玉石 K-42 |
| 13. 石核 K-3 | 14. 石核 K-4 | 15. 石核 K-9 | 16. 石核 K-10 |

仙台市文化財調査報告書第158集

町田遺跡

—発掘調査報告書—

1992年3月

発行 仙 台 市 教 育 委 員 会

仙台市青葉区国分町3-7-1

仙台市教育委員会文化財課

印刷 (株) 東 北 プ リ ン ト

仙台市青葉区立町24-24 TEL 263-1166
